

科目名	教科教育法 I-1(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN2-00. NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10054		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 英語教育について、その目的、言語習得理論との関連、教授法等を考察する。(これにより中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。) 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	英語教育に関わる基礎理論を理解し、英語教育について考えることができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	日本の英語教育 (1)			日本における英語教育について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第2回	日本の英語教育 (2)			国際共通語としての英語、日本の英語教育について考える。学生の経験についてグループディスカッション。						
第3回	学習指導要領			学習指導要領について学ぶ。指導要領についてグループディスカッション。						
第4回	小学校英語教育			小学校における英語教育、小・中・高等学校の連携について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				小論文1提出		
第5回	第二言語習得研究 (1)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第6回	第二言語習得研究 (2)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。						
第7回	第二言語習得研究 (3)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				小論文2提出		
第8回	学習者			学習者の個人差について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第9回	チーム・ティーチング			チーム・ティーチングについて学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第10回	評価			評価について学ぶ。評価のしかたについてディスカッション。						
第11回	英語の音声と文字の指導			英語の音声、文字の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。 (レポート説明)						
第12回	語彙・表現の指導			語彙の指導、英語表現の指導について学ぶ。						
第13回	文法の指導			文法の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第14回	英語の授業			英語の授業について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第15回	まとめ			英語教育の学んだことについてまとめます。				レポート提出		
評価方法及び評価基準	レポート60%、小論文10%、発表10%、授業への参加20% (レポート・小論文・発表を内容と英語の使い方をルーブリック評価します)。到達目標に向けて基礎理解のための課題が適切な方法できているか、授業内容を踏まえ自分の考えが明確に表現できているかを評価する。									
課題等	レポートは準備段階から個別に対応する。各授業で学生がパソコンやスマートフォンを使うことである。									
事前事後学修	各授業時のテーマについてあらかじめ読み、疑問点や自分の考えなどを整理して授業内の議論に備える。発表に備えて授業で取り上げたテーマに関連する文献を読む。提出物を仕上げる事で授業内容の復習、確認をする。議論や発表など授業を通して学んだ事を踏まえ、考えた事について書く(課題1~2)。レポートを書くにあたってはテーマを選び、関連の文献を読むことにより深く学び考える。授業外における学習に費やす時間の目安は週3時間程度。									
教材教科書参考書	『グローバル時代の英語教育』成実堂出版 岡 秀夫 編著 (2010年 ISBN: 978-4-7919-3099-9) 中学校学習指導要領(最新版)及び同解説 高等学校学習指導要領(最新版)及び同解説									
留意点	授業見学と集中講義を夏季休業中に実施する。欠席する場合、できれば事前に知らせることが必要となる。									

科目名	教科教育法Ⅰ-2(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN2-01.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10055		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。									
到達目標	2-1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-3) 話すこと(やり取り・発表)の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。					2-10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。 2-13) ALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。 3-1) 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。 3-2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。				
	授 業 計 画									
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	科目説明と英語コミュニケーションの議論			コース目的を説明して、コミュニケーションのやり方について議論				グループディスカッション		
第2回	4 技能とタスク・ベースの英語指導			4 技能とタスク・ベースの英語指導について議論。学生の経験についてグループディスカッション。				タスク・ベース指導の準備		
第3回	学生発表			タスク・ベース指導について学生が発表する。学生の経験についてグループディスカッション。				タスク・ベース指導デモンストレーション		
第4回	リスニング指導			リスニング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				リスニング課題説明		
第5回	スピーキング指導			スピーキング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				スピーキング課題説明		
第6回	リスニング・スピーキング指導練習			学生がリスニングとスピーキングアクティビティを指導する				L・S指導デモンストレーション		
第7回	リーディング指導			リーディング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				リーディング課題説明		
第8回	ライティング指導			ライティング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				ライティング課題説明		
第9回	リーディング・ライティング指導練習			学生がリーディングとライティングアクティビティを指導する				R・W指導デモンストレーション		
第10回	英語の授業でのICTの使い方			英語の指導でのICTの使い方について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第11回	チームティーチング			ALTとチームティーチングについて学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第12回	欧米文化指導			英語と欧米文化の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				文化関係課題説明		
第13回	指導案の作り方			指導案の作り方について学ぶ。小論文の説明。				指導案を作る		
第14回	英語の授業			英語の模擬講義；小論文について考える				英語の授業デモンストレーション		
第15回	英語の授業			英語の模擬講義；小論文を提出				英語の授業デモンストレーション；小論文		
評価方法及び評価基準	授業見学と授業評価：30%；英語の模擬講義(内容とスタイル)：30%；小論文(内容と英語正確さ)：30%；宿題と授業への参加：10%。(課題・小論文・発表を内容と英語の使い方をルーブリック評価します)									
課題等	課題等は次時間に返却するが、不十分な場合は再提出とする。各授業で学生がパソコンやスマートフォンを使うことである。									
事前事後学修	授業で紹介する文書を読んでください。読んだ文書について、説明発表をしてもらいます。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	『グローバル時代の英語教育』成美堂出版 岡 秀夫 編著 (2010年 ISBN: 978-4-7919-3099-9) 中学校学習指導要領(最新版)及び同解説 高等学校学習指導要領(最新版)及び同解説									
留意点	授業見学と集中講義が夏季休業中に実施する。欠席する場合、できれば事前に知らせることが必要となる。									

科目名	教科教育法ⅡA(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-02.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10074		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 英語科における授業設計、教材研究、授業実践、授業分析の方法について実践的かつ省察的に学ぶとともに、英語科の授業が抱える課題を検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	学習指導案の作成、授業実践及び授業分析を通して英語科の授業のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	オリエンテーション		授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「私が受けた英語科の良い授業」(第2回授業時提出)					講義		
第2回	英語科の目標と内容		学習指導要領にみる小学校・中学校・高等学校の目標及び内容					講義		
第3回	授業設計(1)		目標分析による目標設定、年間指導計画、単元の指導計画の策定					講義		
第4回	授業設計(2)		評価計画の策定、1単位授業時間の授業構成、教師の役割					講義		
第5回	授業設計(3)		代表的な教授学習活動、教材・教具の準備					講義		
第6回	教材研究(1)		教材研究の目的と方法、教材分析、教材解釈					講義		
第7回	教材研究(2)		教材研究と授業設計 履修学生による教材研究演習					講義・演習		
第8回	まとめ+試験		(中間)まとめ+試験の実施					試験		
第9回	学習指導案の作成(1)		学習指導案の目的と役割、学習指導の種類と内容 マイクロティーチング(1)に向けての学習指導案の作成					講義・演習		
第10回	マイクロティーチング(1)		履修学生によるマイクロティーチング(1)					演習		
第11回	授業分析(1)		授業分析の方法と実践 マイクロティーチング(1)の授業分析の実践					講義・演習		
第12回	学習指導案の作成(2)		マイクロティーチング(2)に向けての学習指導案の作成					演習		
第13回	マイクロティーチング(2)		履修学生によるマイクロティーチング(2)					演習		
第14回	授業分析(2)		マイクロティーチング(2)の授業分析の実践					演習		
第15回	英語科授業の課題及びまとめ		英語科授業の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「コミュニケーション能力の基礎を養う授業とは」					講義・演習		
評価方法及び評価基準	試験(50%)、学習指導案の作成(20%)、マイクロティーチング(20%)、レポート(10%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科における授業のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教科書参考書	「若手英語教師のためのよい授業をつくる30章」(本多敏幸著、教育出版) ISBN 978-4316803210 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科における学習指導、授業のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。後期において「教科教育法ⅡC(英語)」を受講するには、本科目を履修していなければならない。									

科目名	教科教育法ⅡB(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-03.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10075		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  言語テスト理論の基礎を概観し、英語科におけるテスト及び学習評価の方法について実践的に学ぶとともに、それらが抱える課題を検討する。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	英語科におけるテスト作成を通して言語テスト理論の基礎並びに英語科におけるテスト及び学習評価のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「私が受けた英語科の良いテスト」(第2回授業時提出)						講義	
第2回	テストと評価		測定とテスト、形成的評価と総括的評価、波及効果						講義	
第3回	テストの目的と種類		熟達度テスト、到達度テスト、診断テスト、配置テスト						講義	
第4回	テストの妥当性(1)		構成概念妥当性、内容妥当性と基準関連妥当性						講義	
第5回	テストの妥当性(2)		採点における妥当性、妥当性を高めるために						講義	
第6回	テストの信頼性(1)		テスト問題の信頼性、採点上の信頼性						講義	
第7回	テストの信頼性(2)		信頼性を高めるために、信頼性と妥当性						講義	
第8回	まとめ+試験		(中間)まとめ+試験の実施						試験	
第9回	テストの波及効果		有益な波及効果と有害な波及効果、有益な波及効果をもたらすために						講義	
第10回	テスト細目規定		テスト細目規定の目的と役割、テスト細目規定の作成						講義・演習	
第11回	英語科到達度テストの作成		履修学生による英語科の到達度テストの作成						演習	
第12回	英語科到達度テストの発表		履修学生による各自が作成したテストの発表						演習	
第13回	英語科到達度テストの分析		テスト分析の方法と実践 履修学生による各自が作成したテストの分析						講義・演習	
第14回	英語科におけるテストと学習評価		形成的テストと総括的テスト、テスト以外の評価方法						講義	
第15回	英語科におけるテストと評価の課題及びまとめ		英語科におけるテストと評価の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「有益な波及効果をもたらす英語科テスト」						講義・演習	
評価方法及び評価基準	試験(50%)、テストの作成(30%)、レポート(20%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科におけるテスト作成のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教材教科書参考書	「実例でわかる英語テスト作成ガイド」(小泉利恵・印南洋・深澤真著、大修館書店) ISBN 978-4469246100 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科におけるテスト・評価のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。									

科目名	教科教育法ⅡC(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-04. NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10085		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	選択								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          外国語教育における意味と形式の指導の統合を目指すアプローチである「フォーカス・オン・フォーム」(FonF)の理論的背景及び指導原理を概観した上で、中学校・高等学校の英語科授業への応用可能性とその課題について検討し、コミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について考究する。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	FonFのアプローチに基づく具体的な教授学習活動の作成演習を通して、中学校・高等学校の英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「コミュニケーション能力とは何か」(第2回授業時提出)				講義		
第2回	外国語教育とコミュニケーション能力(1)			コミュニケーション能力とその構成要素				講義		
第3回	外国語教育とコミュニケーション能力(2)			外国語教育で育成を目指すコミュニケーション能力				講義		
第4回	外国語教育における意味と形式の指導(1)			外国語の意味と形式の指導				講義		
第5回	外国語教育における意味と形式の指導(2)			外国語教育における意味と形式の指導の変遷、PPPアプローチ				講義		
第6回	FonFの理念と指導原理(1)			FonFとその特徴、FonFの指導原理				講義		
第7回	FonFの理念と指導原理(2)			FonFによるコミュニケーション能力の発達、場面・文脈の活用とFonF				講義		
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施				試験		
第9回	FonFの指導技術(1)			「スキル」としての文法指導、「先取り型」と「反応型」のFonF				講義		
第10回	FonFの指導技術(2)			FonFによるQ-A活動の工夫、FonFによるタスクの工夫				講義・演習		
第11回	FonFに基づく教授学習活動の作成			履修学生によるFonFに基づく教授学習活動の作成				演習		
第12回	FonFに基づく教授学習活動の発表			履修学生による各自が作成した教授学習活動の発表				演習		
第13回	FonFに基づく教授学習活動の分析・評価			履修学生による各自が作成した教授学習活動の分析と評価				講義・演習		
第14回	FonFに基づく英語科授業の可能性			学習指導要領とFonFに基づく英語科の授業、FonFに基づく英語科における評価				講義		
第15回	FonFに基づく英語科授業の課題及びまとめ			FonFに基づく英語科授業の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「FonFに基づく英語科授業の可能性と課題」				講義・演習		
評価方法及び評価基準	試験(50%)、教授学習活動の作成(30%)、レポート(20%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教材教科書参考書	「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。 本科目を受講するには、前期において「教科教育法ⅡA(英語)」を履修していなければならない。									

科目名	教科教育法Ⅰ-1(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA2-00. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10056		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語教育の構造や授業づくりに関する基本的な知識について理解することを通して、国語教育実践を行っていくための基礎的な思考力の習得をめざす。</li> </ul> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語教育の構造や授業づくりに関する基本的な知識について理解できている。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	授業づくりについて考える 1			古田尚行『国語の授業の作り方』第1章を手掛かりに考える				ディスカッション		
第3回	授業づくりについて考える 2			古田尚行『国語の授業の作り方』第2章を手掛かりに考える				ディスカッション		
第4回	授業づくりについて考える 3			古田尚行『国語の授業の作り方』第3章を手掛かりに考える				ディスカッション		
第5回	授業づくりについて考える 4			古田尚行『国語の授業の作り方』第4章を手掛かりに考える				ディスカッション		
第6回	授業づくりについて考える 5			古田尚行『国語の授業の作り方』第5章を手掛かりに考える				ディスカッション		
第7回	文学を「読むこと」の授業 1			授業記録の作成と省察①「桜蝶」				ディスカッション		
第8回	文学を「読むこと」の授業 2			授業記録の作成と省察②「桜蝶」				ディスカッション		
第9回	文学を「書くこと」の授業 1			文学創作の学習指導について考える				ディスカッション		
第10回	文学を「書くこと」の授業 2			授業の実際と考察①「俳句の鑑賞」				ディスカッション		
第11回	文学を「書くこと」の授業 3			授業の実際と考察②「俳句の創作」				ディスカッション		
第12回	文学を「書くこと」の授業 4			授業の実際と考察③「短歌の鑑賞」				ディスカッション		
第13回	文学を「書くこと」の授業 5			授業の実際と考察④「短歌の創作」				ディスカッション		
第14回	文学を「書くこと」の授業 6			授業の実際と考察⑤「書の表現と鑑賞」				ディスカッション		
第15回	まとめ			学習指導案の作成						
評価方法及び評価基準	中間レポート20点、授業記録と省察20点(10点×2)、コメントペーパー25点(5点×5)、学習指導案35点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	教科書の該当ページを予習してきてください。ただ読んでくれるのではなく、理解できないところについて参考書等で調べたり、授業で話し合ってみたいことについて考えたりしたうえで授業に参加することを求めます。 準備学習時間の目安：1回あたり1～2時間									
教材教科書参考書	<p>【教科書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。ただし、予習をしっかりしたうえでの質問にしてください。									

科目名	教科教育法Ⅰ－2(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA2-01.NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10057		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理				授業 形態	講義	単独
	教員免許(国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、国語科授業を構想することを通して、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深める。</li> <li>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</li> </ul> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等教育における国語教育の理論と方法に関する基本的な知識が身についている。</li> <li>・文学教材について分析・考察し、それを踏まえた学習指導案の作成および授業実践ができる。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	授業記録の作成と考察1			三崎亜紀「私」（中学校3年）の授業について考える①					ディスカッション	
第3回	授業記録の作成と考察2			三崎亜紀「私」（中学校3年）の授業について考える②					ディスカッション	
第4回	教材研究1			魯迅「故郷」（中学校3年）の分析・考察					ディスカッション	
第5回	教材研究2			魯迅「故郷」（中学校3年）の先行研究を読む					ディスカッション	
第6回	教材研究3			魯迅「故郷」（中学校3年）の指導案を読む					ディスカッション	
第7回	学習指導案の作成1			班ごとに学習指導案を検討・作成する					ディスカッション	
第8回	学習指導案の作成2			班ごとに学習指導案を検討・作成する					ディスカッション	
第9回	模擬授業および検討会1			「故郷」第2時の模擬授業および検討を行う					模擬授業・討議	
第10回	模擬授業および検討会2			「故郷」第3時の模擬授業および検討を行う					模擬授業・討議	
第11回	模擬授業および検討会3			「故郷」第4時の模擬授業および検討を行う					模擬授業・討議	
第12回	模擬授業および検討会4			「故郷」第5時の模擬授業および検討を行う					模擬授業・討議	
第13回	模擬授業および検討会5			「故郷」第6時の模擬授業および検討を行う					模擬授業・討議	
第14回	模擬授業および検討会6			「故郷」第7時の模擬授業および検討を行う					模擬授業・討議	
第15回	まとめ			この授業のまとめをする						
評価方法及び評価基準	授業記録と省察20点（10点×2）、模擬授業検討会への参加30点（5点×6）、模擬授業25点、学習指導案25点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	毎回、教科書の該当ページ等を予習してきてください。ただ読んでくるのではなく、理解できないところについて参考書等で調べたり、授業で話し合ってみたいことについて考えたりしたうえで授業に参加することを求めます。 準備学習時間の目安：1回あたり1～2時間									
教材教科書参考書	<p>【教科書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。ただし、予習をしっかりしたうえでの質問にしてください。									

科目名	教科教育法ⅡA(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-02. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10076		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(中学国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校・高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、国語科授業を構想することを通して、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深める。</li> <li>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</li> </ul> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等教育における国語教育(主に「読むこと」領域)の理論と方法に関する基本的な知識が身についている。</li> <li>・ 中等教育における国語科の教材(主に「読むこと」領域)について分析・考察し、それをもとに授業を構想し、学習指導案を作成することができる。</li> </ul>									
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	授業記録作成と省察①			「水の東西」(第2時)の授業について、検討する					ディスカッション	
第3回	授業記録作成と省察②			「水の東西」(第3時)の授業について、検討する					ディスカッション	
第4回	授業記録作成と省察③			「水の東西」(第4時)の授業について、検討する					ディスカッション	
第5回	学習指導案作成1			班ごとに学習指導案を作成する					ディスカッション	
第6回	学習指導案作成2			班ごとに学習指導案を作成する					ディスカッション	
第7回	模擬授業および検討会1			「ミロのヴィーナス」(第2時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第8回	模擬授業および検討会2			「ミロのヴィーナス」(第3時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第9回	模擬授業および検討会3			「ミロのヴィーナス」(第4時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第10回	模擬授業および検討会4			「ミロのヴィーナス」(第5時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第11回	模擬授業および検討会5			「「である」ことと「する」こと」(第2時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第12回	模擬授業および検討会6			「「である」ことと「する」こと」(第3時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第13回	模擬授業および検討会7			「「である」ことと「する」こと」(第4時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第14回	模擬授業および検討会8			「「である」ことと「する」こと」(第5時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第15回	まとめ			この授業のまとめをする						
評価方法及び評価基準	模擬授業・検討会への参加40点(5点×8)、模擬授業30点、学習指導案30点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	<p>※教科教育法Ⅰ-1(国語)、教科教育法Ⅰ-2(国語)を履修済みであることが望ましい。</p> <p>未履修の場合は、それらの授業で指定されているテキストを予習として読んでおくこと。</p> <p>・ 準備学習時間の目安: 3時間(学習指導案をひとつ作成するのにかかる時間)</p>									
教材教科書参考書	<p>【教科書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。ただし、熟考したうえでの質問にしてください。									



科目名	教科教育法ⅡB(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-03. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10077		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	今村 かほる、鈴木 愛理			授業 形態	講義	複数	
	教員免許(中学国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の定番小説教材の読みを深め、授業を構想し、模擬授業を行うことで学習指導案の改善を行う。</li> <li>・高等学校の授業で使用される指導案に基づいた授業の意図と実際、研究協議会による検討の実践。</li> </ul> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の小説教材で学習指導案を作成し、模擬授業を行い、学習指導案を改善することができる。</li> <li>・授業を構成する指導案の意図・工夫・観点などを理解すると共に、それに基づく授業を観察し、評価することができる</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	学習指導案の作成1			班ごとに担当する教材での学習指導案を作成する					グループワーク・ディスカッション	
第3回	学習指導案の作成2			班ごとに担当する教材での学習指導案を作成する					グループワーク・ディスカッション	
第4回	模擬授業と検討会1			「山月記」(第2時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第5回	模擬授業と検討会2			「山月記」(第3時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第6回	模擬授業と検討会3			「山月記」(第4時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第7回	模擬授業と検討会4			「山月記」(第5時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第8回	模擬授業と検討会5			「山月記」(第6時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第9回	模擬授業と検討会6			「山椒魚」(第2時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第10回	模擬授業と検討会7			「山椒魚」(第3時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第11回	模擬授業と検討会8			「山椒魚」(第4時)の模擬授業と検討会					グループワーク・ディスカッション	
第12回	中学校・指導案の理解と観察			聖愛中学校に出向き、指導案の検討と授業の観察を行う					グループワーク・ディスカッション	
第13回	中学校・研究協議会			授業の研究協議会を聖愛中学校の教諭を含め行う					グループワーク・ディスカッション	
第14回	高校・指導案の理解と観察			聖愛高等学校に出向き、指導案の検討と授業の観察を行う					グループワーク・ディスカッション	
第15回	高校・研究協議会			授業の研究協議会を聖愛高等学校の教諭を含め行う					グループワーク・ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～11回の授業のコメントペーパー(20点)</li> <li>・模擬授業(25点)</li> <li>・学習指導案(25点)</li> <li>・授業見学と授業評価(30点)</li> </ul>									
課題等	適宜指示します。第12回～第15回分はレポート課題を課す。									
事前事後学修	第12回から第15回の前後に、事前準備事後報告の時間を設定する。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	第12回から15回は、夏季休業中に実施する。詳細は掲示する。									

科目名	教育原理		科目ナンバリング	T-TLFU2-00. NKS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10082		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目では、西洋を中心に過去の教育思想に触れ、それと向き合って自ら教育観・人間観・社会観を深めるとともに、日本の教育史についてごく基本的な知識を身に付け、自らの置かれた状況を相対化し批判的・創造的に思考する力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 過去の著名な思想家の教育思想について基礎的な理解を得る。</p> <p>2) 過去の思想等を手がかりにしながら、教育の本質、理想、問題等について、自分なりに考えることができる。</p> <p>3) 日本近代教育の歴史について基礎的な知識を身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明							
第2回	「教育」とは何か		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育」とは何か</li> <li>・制度化された教育</li> <li>・「教育」を支えるもの</li> </ul>							
第3回	教育思想の源流		<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ギリシャの社会と教育</li> <li>・ソクラテスの思想</li> <li>・プラトンの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第4回	中世から近世の教育と思想		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネッサンスと教育</li> <li>・宗教改革とルターの思想</li> <li>・コメニウスの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第5回	西洋近代の教育思想(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋近代と啓蒙主義</li> <li>・ルソーの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第6回	西洋近代の教育思想(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カントの哲学と教育論</li> </ul>						ディスカッション	
第7回	西洋近代の教育思想(3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペスタロッチの実践と思想</li> <li>・フレーベルの思想</li> </ul>						ディスカッション	
第8回	近代学校の誕生と展開		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代教育制度の確立</li> <li>・フランス・イギリスの場合</li> </ul>							
第9回	20世紀の教育思想(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デューイの思想</li> <li>・新教育の様々な実践と思想</li> </ul>						ディスカッション	
第10回	20世紀の教育思想(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルノーの教育思想</li> </ul>						ディスカッション	
第11回	20世紀の教育思想(3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ポストモダン」とは何か</li> <li>・イリイチの教育論</li> </ul>						ディスカッション	
第12回	20世紀の教育思想(4)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノディングズのケア論</li> </ul>						ディスカッション	
第13回	日本教育史概略(1) 近世から戦前まで		<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の教育</li> <li>・近代教育制度の発足</li> <li>・「国民」の教育</li> <li>・新教育の試み</li> <li>・戦時下の教育</li> </ul>							
第14回	日本教育史概略(2) 戦後以降		<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後教育改革</li> <li>・学校化社会の成立</li> <li>・1990年代以降の学校</li> </ul>							
第15回	教育実践に生きた思想		<ul style="list-style-type: none"> <li>・金森俊郎の実践と思想</li> </ul>						ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み（ミニツツペーパーを含む） 50%</li> <li>・レポート 50%</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート：授業で扱った思想家から一人を選び、その思想から考えたことについて論じる。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に、テキストの指定された箇所や事前に配布された資料を読み、感想や疑問を書き留めてくる。</li> <li>・授業中に共有し、ディスカッションを行います。</li> <li>・授業後には、講義内容を振り返り、提示された問いに対する自分なりの考えをまとめておくこと。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 藤井千春『時代背景から読み解く西洋教育思想』ミネルヴァ書房、2016年。(ISBN: 978-4623077120)</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	教育史		科目ナンバリング	T-TLFU2-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10083		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 日本における教育の歴史についての講義を行う。また、単に講義を聴くのみでなく、歴史的出来事の意味について自分なりに考えを深める。なお、理解を深めることができるよう、度々、映画等の映像資料を用いる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 日本の教育史に関する基礎的知識を身につける 2) 教育に関する問題について、歴史的知見や多様な立場からの意見を踏まえううえで自身の意見を持つことができ、それを専門用語を用いつつ理論的に述べるができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明					初回欠席者は履修を認めないので注意すること	
第2回	前近代(1) 組織としての教育の発展			・日本における「組織としての教育」の拡大 ・江戸の「教育爆発」						
第3回	前近代(2) 江戸時代の「学び」			・手習い塾での子どもの学び ・藩校・学問塾での大人の学び						
第4回	戦前(1) 近代教育の発足			・維新勅語の教育政策 ・「学制」による出発 ・「自由教育令」の理想主義						
第5回	戦前(2) 教育勅語への道			・復古主義の台頭と「改正教育令」 ・教育勅語成立の過程						
第6回	戦前(3) 近代教育制度の確立			・初代文部大臣森有礼の教育政策 ・明治後期の教育政策 ・大正期の教育政策						
第7回	戦前(4) 明治の教授学から大正新教育へ			・明治期の教育方法論 ・大正新教育の実践						
第8回	戦前(5) 震災、恐慌から戦争へ			・震災と恐慌 ・昭和戦前の教育政策 ・戦中の教育政策						
第9回	戦後(1) 占領と教育改革			・終戦直後の軍国主義解体 ・新学制の発足						
第10回	戦後(2) 戦後新教育と保革対立			・戦後新教育 ・保革対立と「逆コース」						
第11回	戦後(3) 政治の季節と高度成長			・政治運動と教育 ・経済発展と教育						
第12回	戦後(4) 矛盾の噴出			・1970年代の教育政策 ・学校における諸問題の噴出と教師たちの対応						
第13回	戦後(5) ポスト近代社会への教育			・臨時教育審議会の教育政策 ・「ゆとり」と「生きる力」の理念 ・市場原理の導入						
第14回	戦後(6) 国家と教育のゆくえ			・徳育の強調・強化と教育基本法改正 ・学びの改革の現在						
第15回	教育はどこへ向かうか まとめ			・コロナショック以降の公教育 ・授業全体の総括						
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・参加度：40% ・期末試験：60% ・ミニッツペーパー：適宜加点</p>									
課題等	・ミニッツペーパーに対しては、次回授業冒頭においてフィードバックを行う。									
事前事後学修	・授業前にシラバスに記載された教科書の各章を読んでくること。									
教材教科書参考書	・教科書：山本正身『日本教育史』慶應義塾大学出版会、2014年。（ISBN：978-4766421316）									
留意点	特になし									

科目名	教師論		科目ナンバリング	T-TLFU2-02. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10051		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代社会における教職の意義や役割、身につけるべき資質能力等について、主体的・対話的に学び、考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 現代の日本における教師という職業の諸条件に関する知識を得る。</p> <p>2) 教師とは何かについて、現代の動向を踏まえつつ考えを深める。</p> <p>3) 教師として生きることの意味や困難や喜びについて様々な知識や事例にもとづいて考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明</li> <li>・受講者間での自己紹介</li> </ul>						
第2回	教師をめざすということ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程の見通し</li> <li>・教員採用試験について</li> </ul>						
第3回	中等教育の教職の魅力 〔教科書第2章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教師の仕事とその魅力</li> <li>・高校教師の仕事とその魅力</li> </ul>				ディスカッション		
第4回	日本の教職の特徴 〔教科書第3章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の数や性別</li> <li>・教員の勤務形態・社会的地位・給与</li> <li>・教員の職務内容</li> <li>・学校文化と社会的背景</li> </ul>				ディスカッション		
第5回	教師像の史的転回 〔教科書第4章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖職者としての教師</li> <li>・労働者としての教師</li> <li>・技術的熟達者としての教師</li> <li>・専門家としての教師</li> </ul>				ディスカッション		
第6回	教員の服務 〔教科書第5章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置者と適用法</li> <li>・服務と処分</li> <li>・職務上の義務</li> <li>・身分上の義務</li> </ul>				ディスカッション		
第7回	教員の権利と身分保障 〔教科書第6章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働条件をめぐるルール</li> <li>・労働基本権制限をめぐる問題</li> <li>・教員の身分保障</li> </ul>				ディスカッション		
第8回	学び続ける教師 〔教科書第7章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教え手から学びの専門家へ</li> <li>・学校内外での学び</li> <li>・教員研修制度</li> <li>・キャリアの形成と研修</li> </ul>				ディスカッション		
第9回	チームとしての学校 〔教科書第8章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チームとしての学校」の3つの願い</li> <li>・組織構造</li> <li>・未来の教師像</li> </ul>				ディスカッション		
第10回	専門家としての教師 〔教科書第9章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教え主義」の呪縛</li> <li>・「教え主義」からの脱皮</li> <li>・「学びの場」を生み出す教師</li> </ul>				ディスカッション		
第11回	子どもが〈いのち〉に見える教師 〔教科書第10章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災が変えた「子ども観」</li> <li>・「子どもを理解する」ということ</li> </ul>				ディスカッション		
第12回	いじめに向き合う 〔教科書第11章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の子供たちは幸せなのか</li> <li>・いじめをなくすには</li> <li>・自尊感情を培うには</li> </ul>				ディスカッション		
第13回	性の多様性をめぐる課題 〔教科書第12章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・性の多様な発達</li> <li>・学校・教師のこれからの課題</li> <li>・複合的な「私」と「多様性」</li> </ul>				ディスカッション		
第14回	「教える」ということの意味 〔教科書第13章〕			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「資質・能力」の意味と論点</li> <li>・本来の「コンピテンシー」とは？</li> <li>・「教える」とは？</li> </ul>				ディスカッション		
第15回	まとめ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業全体の総括</li> </ul>						
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の発表・議論への貢献：50%</li> <li>・期末試験：50%</li> <li>・ミニッツペーパー：適宜加点</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニッツペーパーに対しては、次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前にシラバスに記載された教科書の各章や、事前に配布されたテキストを読んでくること。テキストの内容について学生間で説明し合ったり、感想や疑問を共有したりします。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 佐久間亜紀・佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。（ISBN: 978-4623085361）</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	教育制度論		科目ナンバリング	T-TLFU2-03. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10086		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように「教育」に関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	教育に関する法の概観			教育関係の法の体系を学ぶ						
第2回	日本国憲法①			日本国憲法26条「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」						
第3回	日本国憲法②			日本国憲法23条「学問の自由」ほか						
第4回	子どもの権利条約			子どもの権利条約2条1項、3条1項、7条1項、13条ほか						
第5回	教育機関に関する規定①			学校の設置						
第6回	教育機関に関する規定②			学校の目的と編成						
第7回	教育機関に関する規定③			学校評議員制度と学校運営協議会						
第8回	教育課程に関する規定①			教育課程と学習指導要領、教科書						
第9回	教育課程に関する規定②			出欠席の管理、学年、学期						
第10回	児童・生徒等の就学に関する規定①			就学の権利と義務						
第11回	児童・生徒等の就学に関する規定②			生徒指導						
第12回	児童・生徒等の就学に関する規定③			学校における保健と安全						
第13回	教育職員に関する規定			免許、服務、分限、懲戒等						
第14回	教育行政・財政に関する規定			教育行政の組織、教育財政の仕組み						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価方法及び評価基準	試験のみを評価の対象とする									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、ノートの整理や支持された文献の参照などを行うこと									
教材教科書参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップVer. 3.0』昭和堂									
留意点	法規の条文をその場で参照できるよう、教育六法等を常に教室に持参すること									

科目名	教育心理学		科目ナンバリング	T-TLFU2-04. NKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10052		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          学習を積み重ねて初めて人は人になる。学習の成立に“教育”の活動はいかに関与するのか。本稿では、主に心理活動に障害を抱える事例に対する機能形成実験から学習成立の原理を探る          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	1. 基本概念と語句を理解すること 2. 教育と心の活動の関係性について、答えを見つけること									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備考	
第1回	人間関係の始まり	狼に育てられたと推定される2人の少女								
第2回	環境と機能形成	乳幼児期における実験例と環境・社会の役割理論								
第3回	心の活動の生得性と習得性	心の活動の生得性一習得性を巡り行われてきた議論を紹介								
第4回	言語活動の機能	言語活動の種類と機能について心理学的観点から見る								
第5回	言語活動の障害と形成1	言語活動の障害と形成1：自閉症と判定された子供の場合							ディスカッション	
第6回	言語活動の障害と形成2	言語活動の障害と形成2：発達の遅れがあると判定された子供の場合							ディスカッション	
第7回	言語活動の総括	言語活動の機能を列挙し、教育的有効性と日常生活を考える								
第8回	言語活動の全体	日常場面の言語を通して言語機能を全体的に考える。外国語習得含む								
第9回	視覚活動の障害と形成	視覚活動の障害と形成：乳幼児、視覚障害児の機能形成実験例								
第10回	学習意欲の喪失	乳幼児、大学生、企業人の学習意欲の喪失の実例を通して考える							ディスカッション	
第11回	描画行動の障害と形成	描画行動の障害と形成過程について幼児と言語機能障害児の実験							ディスカッション	
第12回	新生児、幼児の発達	新生児、幼児の発達過程について代表的な実験例から考える							ディスカッション	
第13回	性格・発達検査	性格・発達検査を通して子供を理解する方法と意味について考える								
第14回	教育活動の概念と方法	Umezumiの相互輔生工作を基に教育活動の概念を整理する								
第15回	総括	学校、教育、障害、発達について全体的に考える								
評価方法及び評価基準	講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。									
課題等	小レポートは講義中に解説する。									
事前事後学修	毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。									
教材教科書参考書	なし。プリント配布。									
留意点	心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50									

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		科目ナンバリング	T-TLFU2-05. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10087		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目における主題は「行動の障害」であるが、心理学における「行動」概念は、人間の活動全てを含む。従って本科目で用いる「行動の障害」という概念は、発達障害、知的障害、非日本語母語話者など、病気や障害の有無を問わず、日常の「行動」に何らかの「障害」が生じる人すべてを含みこむ。</p> <p>発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする人が活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、こうした人の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 特別の支援を必要とする人の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>2. 特別の支援を必要とする人に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある人の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	心・行動の形成とその障害状況		心理学における代表的な発達・学習理論とそれらの理論が適用できない事例							
第2回	特別支援教育とインクルーシブ教育 - その制度の理念と仕組み		日本と欧米における特別支援教育の制度・理念の対比。日本においては東京都と青森県の場合を対比							
第3回	特別な支援を求めるこどもたち - 発達障害と知的障害		発達障害と知的障害の発達特性と学習過程						ディスカッション	
第4回	発達障害と知的障害の状況を打開する事例研究		障害状況を打開する方法 - 発達障害と知的障害の状況に対する事例研究						ディスカッション	
第5回	特別な支援を求めるこどもたち - 視覚障害・聴覚障害		視覚障害と聴覚障害の発達特性と学習過程						ディスカッション	
第6回	視覚障害と聴覚障害の状況を打開する事例研究		障害状況を打開する方法 - 視覚障害と聴覚障害の状況に対する事例研究						ディスカッション	
第7回	特別な支援を求めるこどもたち - 知的障害・肢体不自由・病弱		知的障害・肢体不自由・病弱の状況における発達特性と学習過程						ディスカッション	
第8回	多様な障害状況、その支援体制 (1)		発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法							
第9回	教育課程の定義と幼児、児童・生徒の発達		「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容						ディスカッション	
第10回	障害状況を打開する基本理念と理論		個別の指導計画・個別的教育支援計画を作成する意義と方法に関して、第4、6、8回授業での事例研究を総括し、その基本理念と理論を探る						ディスカッション	
第11回	学校機関と地域・家庭・機関との連携		特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築する具体例（青森県の場合）						ディスカッション	
第12回	多様な障害状況、その支援体制 (2)		母国語や貧困・学習上又は生活上の困難や組織的な対応についての具体例（青森県の場合）							
第13回	脳損傷者の障害状況とその支援方策		脳が壊れても機能は形成される RewinとSadatoの実験報告							
第14回	自閉症の障害状況とその支援方策		言語活動を形成することを介して多様な障害状況が克服される							
第15回	総括		行動の障害状況に応じた機能形成の原理を探る							
評価方法及び評価基準	<p>平常点評価50%、レポート50%。毎回の授業で小レポートを課する。小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする。</p> <p>翌週提出する大きなレポートは、3回。テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する。</p>									
課題等	<p>毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説。</p>									
事前事後学修	<p>次回までに考えてくる課題を出し、次回冒頭解説する。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めてレポートを書くこと。</p>									

科目名	教育課程とカリキュラム・マネジメント		科目ナンバリング	T-TLFU2-06. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10080		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現在の我が国における教育課程とカリキュラム・マネジメントについて基礎的な知識を得るとともに、自教科における単元のデザインに取り組むことを通して、学校におけるカリキュラム・マネジメントに寄与するための基礎的な力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育課程・カリキュラムの概念と意義、および日本の教育課程行政に関する基礎知識を得る。</p> <p>2) 学習指導要領の前文および第1章総則の概要を理解する。</p> <p>3) 自身が取得予定の免許において、学習指導要領の考え方に沿って単元単位のカリキュラム・デザインができる。</p> <p>4) 学校におけるカリキュラム・マネジメントに関する基礎知識を得る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	導入		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目のオリエンテーション</li> <li>・「教育課程」と「カリキュラム・マネジメント」の概念</li> </ul>						初回欠席者は履修を認めないので注意すること	
第2回	日本の教育課程行政		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程に関する法的枠組み〔教育六法等を持参〕</li> <li>・学校における教育課程編成の具体</li> </ul>						ICTを活用	
第3回	学習指導要領の変遷		<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後日本における学習指導要領の変遷</li> </ul>						ディスカッション	
第4回	カリキュラム設計の原理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験主義と系統主義の二項対立の捉え方</li> </ul>						ディスカッション	
第5回	学習指導要領における教育の目標と方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「資質・能力」の内容と意義</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の意味</li> </ul>						ディスカッション	
第6回	学習指導要領における教育の内容と評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の「見方・考え方」を学ぶ重要性</li> <li>・これからの教育評価のあり方</li> </ul>						ディスカッション	
第7回	学習指導要領のカリキュラム論(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントの意義と方法</li> <li>・カリキュラム評価</li> </ul>						ディスカッション	
第8回	学習指導要領のカリキュラム論(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントの観点</li> <li>・社会に開かれた教育課程</li> </ul>						ディスカッション	
第9回	教育評価の基礎知識		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の様々な方法</li> <li>・新しい評価方法の試み</li> </ul>						ディスカッション	
第10回	単元のデザイン(1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案の標準的な書き方による単元指導計画立案の方法</li> <li>・逆向き設計論</li> </ul>						ディスカッション	
第11回	単元のデザイン(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科におけるパフォーマンス評価を用いた単元デザイン</li> <li>・外国語科におけるパフォーマンス評価を用いた単元デザイン</li> </ul>						ディスカッション	
第12回	単元のデザイン(3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科におけるパフォーマンス評価を用いた単元デザイン</li> <li>・パフォーマンス評価を用いた単元における指導案の工夫</li> </ul>						ディスカッション	
第13回	中期的なカリキュラムデザイン		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における中期的なカリキュラム・デザイン</li> <li>・教科横断カリキュラムの設計方法</li> </ul>						ディスカッション	
第14回	単元指導計画の発表と相互批評		<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者が作成したパフォーマンス評価を用いた単元指導案を発表しあい、相互に批評する</li> </ul>						ディスカッション	
第15回	単元指導計画の発表と相互批評		<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者が作成したパフォーマンス評価を用いた単元指導案を発表しあい、相互に批評する</li> </ul>						ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験：50%</li> <li>・単元指導計画の作成と発表：50%</li> <li>・ミニッツペーパー：適宜加点</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元指導計画：発表時、履修者相互にコメントし合うとともに、教員よりフィードバックが行われる。</li> <li>・ミニッツペーパー：次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の内容まとめにおいては、実際に指導要領の記述を自ら確認しつつ作業すること。</li> <li>・単元指導計画の作成にあたっては、単元の内容や指導実践例について、十分に調査すること。</li> </ul>									
教材教科書参考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則篇』2018年。(ISBN: 978-4827815801)</li> <li>・参考書 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計-パフォーマンス評価をどう生かすか-』図書文化社、2016年。(ISBN: 978-4810066692)</li> </ul>									
留意点	特になし									



科目名	道徳教育の理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP2-00. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10088		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(中免)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>道徳教育および道徳授業について基礎的な知識を得るとともに、それを主体的・対話的に検討すること、および、それらを基にして模擬授業を経験することを通して、各自の道徳教育観を育む。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 現在の日本における道徳教育の枠組みについての基礎的な知識を得る。</p> <p>2) 様々な道徳授業方法論に触れ、自らの基礎的な道徳授業観を形成する。</p> <p>3) 実際に「道徳」の学習指導案を作成し、これに基づいて授業ができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス 道徳教育の歴史			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明</li> <li>・模擬授業の日程決め</li> <li>・道徳教育の歴史概観と教科化の経緯</li> </ul>						
第2回	道徳教育の目標			<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳とは何かを問い直す</li> <li>・道徳教育と道徳の授業の目標について検討</li> </ul>					ディスカッション	
第3回	道徳教育の内容			<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の内容について議論</li> <li>・道徳性の発達</li> </ul>					グループワーク	
第4回	「道徳」授業の方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な方法論</li> <li>・授業例の検討</li> </ul>					ディスカッション	
第5回	「道徳」授業の方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導要領の記述</li> <li>・心情読解型の道徳授業の検討</li> </ul>					ディスカッション	
第6回	「道徳」授業の方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の授業の検討</li> <li>・モラルジレンマによる道徳授業の紹介</li> </ul>					ディスカッション	
第7回	「道徳」授業の方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・スキル・トレーニングによる道徳授業の検討</li> <li>・構成的グループエンカウンターによる道徳授業の紹介</li> </ul>					ディスカッション	
第8回	道徳教育の方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科や他領域における道徳教育の在り方</li> <li>・指導案の書き方</li> </ul>					ディスカッション	
第9回	模擬授業の構想			<ul style="list-style-type: none"> <li>・JPOPを使った授業の紹介</li> <li>・哲学対話による道徳授業の紹介</li> <li>・模擬授業計画</li> </ul>					グループワーク	
第10回	模擬授業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>					ディスカッション	
第11回	模擬授業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>					ディスカッション	
第12回	模擬授業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>					ディスカッション	
第13回	模擬授業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>					ディスカッション	
第14回	模擬授業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>					ディスカッション	
第15回	模擬授業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者による30分間の模擬授業</li> <li>・授業に関するディスカッションと教員からのコメント</li> </ul>					ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験：50%</li> <li>・模擬授業：50%（模擬授業の実施：25%+模擬授業の振り返りと指導案の改善：25%）</li> <li>・ミニツツペーパー：適宜加点</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業の振り返りと改善された指導案：次回授業時まで提出。フィードバックがなされる。</li> <li>・ミニツツペーパー：次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業の実施にあたっては、授業計画のみならず、教材分析において十分な準備が必要とされる。</li> <li>・模擬授業の実施後は、振り返りと指導案の訂正に十分な時間をかけて取り組むことが必要とされる。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<p>教科書・林泰成『道徳教育の方法—理論と実践—』左右社、2018年。（ISBN：978-4865281927）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則篇』2018年。（ISBN：978-4827815801）</li> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』2018年。（ISBN：978-4316300849）</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間指導法		科目ナンバリング	T-TLSP2-01. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10089		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動です。これらの活動が集団の中で、個人の「自律」と協働という2つの能力を向上させていくように、教員・学校は配慮していきます。特別活動が集団と個人を比較すると、どちらかと言えば、集団に重心が置かれる。他方で、総合的な学習は、どちらかと言えば、個人の能力をより伸ばそうとするものです。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な協働作業の中で、調整と対立が生じます。その中で、個人や集団はどのように考え行動すべきか。生徒個人・生徒集団・教員・教員集団の立場で考えていきます。このように、特別活動では、個人は常に集団との関わりを意識せざるを得ない。個人の能力は重要だが、個人が集団との関わりの中で経験的に学んでいくことが重視される。他方で、総合的な学習の主たる理念は、各教科の専門領域を超えて2教科以上の専門領域を横断的に学習する。個人が各教科の専門領域を超える発想で学習・探求していくことが求められます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて			発表は義務だが、評価はしない。発表内容からレポートの作成までの説明を学生にします。						
第2回	特別活動と教育課程			学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察し、学生に理解してもらう。						
第3回	特別活動の基本的性格			特別活動の基本的性格と教育的意義についての考察し、学生に理解してもらう。						
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連			特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることを学生に理解してもらう。						
第5回	学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事とは何か			学級活動、生徒会活動、学校行事のメリット・デメリットを考察し、学生に理解してもらう。						
第6回	学級活動・生徒会活動・学校行事の関係とその意義			「目に見える」・「目に見えない」視点から、3つの活動とその共通点を考察し、学生に理解してもらう。						
第7回	総合的な学習とは何か			総合的な学習と各教科学習の違いとその意義を理解してもらう。						
第8回	総合学習の事例を学ぶ			総合的な学習の事例から横断的な学習のメリットを考察し、理解してもらう。						
第9回	総合的な学習と特別活動の関係			総合的な学習と特別活動の違いと共通点を考察し、学生に理解してもらう。						
第10回	学生による発表（1）			学生が、指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動又は総合的な学習の授業計画を作成して発表。						
第11回	学生による発表（2）			（1）の続き：学生の発表に、これを聴講した学生が疑問・意見をぶつける。						
第12回	学生による発表（3）			疑問の工夫と各学生への助言。						
第13回	学生による発表（4）			意見の工夫と各学生への助言。						
第14回	学生による発表（5）			発表のスピードの工夫と各学生への助言。						
第15回	学生による発表（6）			発表時の態度の工夫と各学生への助言。						
評価方法及び評価基準	3つの特別活動又は総合的な学習から一つを選んでレポート（100%）を提出。									
課題等	講義は、小学校・中学校、高校、そしてこれまでの大学生としての経験等を思い出しながら、聞いてください。									
事前事後学修	講義前日は、教育に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んできてください。 講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。 適宜、参考書等を講義において示します。									
教材教科書参考書	適宜、参考書等を講義において示します。									
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は事前に西東まで連絡をすること。									

科目名	教育の方法と技術		科目ナンバリング	T-TLSP2-02. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10090		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐藤 萬昭 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  情報通信技術の急速な発展等に伴い、学校においてはデジタル教科書、生徒1人に1台のタブレット端末、電子黒板、校内LAN、クラウドシステムなどを導入整備し、その利活用による教育のICT化が進められている。  本科目では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論や授業における指導技術を概説するとともに、情報機器を教育現場における児童生徒への指導にどのように活用するのかについて概説する。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>本科目の到達目標は、次の3つである。  (1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。  (2) 教育の目的に適した指導技術を理解できる。  (3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	オリエンテーション		本科目の概要(科目の意義・目標、授業の進め方、評価の方法)について知る					講義		
第2回	普遍的な教育方法と教授学のはじまり		伝聞・口承による方法、問答法、事物の教育、自然による教育について学ぶ					講義		
第3回	近代学校における教授法の実践と理論		ペスタロッチからヘルバルトまでの教授法について学ぶ					講義		
第4回	教育の現代化と教授理論		問題解決学習、発見学習、有意義受容学習について学ぶ					講義		
第5回	情報や知識を提示・伝達する方法と技術		講義、教科書の使い方、板書・レジュメ・参考資料、全習法と分習法について学ぶ					講義		
第6回	学習意欲を引き出す工夫と授業技術		発問、調べ学習、話し合い学習について学ぶ					講義		
第7回	学習活動を評価する方法と技術		成績評価の意義と目的、客観的・主観的評価について学ぶ					講義		
第8回	教授組織と学習組織		教授組織や学習組織の諸形態について学ぶ					講義		
第9回	教育メディアの種類と機能		印刷型メディア、標本型メディア、非印刷・非標本型メディアの機能について学ぶ					講義		
第10回	各種のメディアの特性と利用		動画・静止画・音声・情報処理メディアの特性と利用について学ぶ					講義		
第11回	教科指導におけるICT活用(1)		ICT活用の具体的な方法や場面、電子黒板の活用について学ぶ					講義		
第12回	教科指導におけるICT活用(2)		教育ICTの先進事例について学ぶ					講義		
第13回	教科指導におけるICT活用(3)		デジタル教科書、オンライン授業について学ぶ					講義		
第14回	情報モラル教育		情報モラル教育の進め方について学ぶ					講義		
第15回	まとめ		本科目の内容を振り返る					講義		
評価方法及び評価基準	平常点評価(40%)及び試験の結果(60%)を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、講義で学んだ知識を確実に自らのものとする中で論理的かつ明晰な文章で記述できるか、の2点を重点的に評価する。									
課題等	課題の提出を求められたときには、提出期限を守ること。									
事前事後学修	適宜授業中に指示するが、復習を中心に学習を進めること。									
教材教科書参考書	【教科書】使用しない。適宜プリントを配布する。 【参考書】必要に応じて参考文献を提示する。									
留意点	日頃から教育のICT化に関わる様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持つように努めてほしい。									

科目名	教育方法の理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP3-13. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10091		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐々木 正晴、松橋 俊輔			授業 形態	演習	クラス分け	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本演習は、次年度に教育実習を控えている3年生を対象に、教育実習に臨むに際して必要最低限の授業力および学習指導案の作成力、さらには基礎学力の有無の判定を行うことを目的とするものである。具体的には、履修者を半分に分けて2クラスとし、クラス毎に履修者各人が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、あわせて基礎学力の問題演習とテストを実施するというものである。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育実習で授業を円滑に行うことができる 2) 学習指導案を作成できる 3) 実習に臨むに際して必要な学力がある</p>									
授 業 計 画										
回	Aクラス					Bクラス				
第1回	導入 (2クラス合同)									
第2回	各回全員がお題に沿った5分間のスピーチを行う (担当：佐々木)					各回2名ずつ35分間の模擬授業を行う (担当：松橋)				
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回	第1回基礎学カテスト (2クラス合同)									
第9回	各回2名ずつ35分間の模擬授業を行う (担当：松橋)					各回全員がお題に沿った5分間のスピーチを行う (担当：佐々木)				
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回	第2回基礎学カテスト (2クラス合同)									
評価方法及び評価基準	<p>1) 5分間スピーチ, 2) 模擬授業の評価, 3) 基礎学カテスト2回, これらの結果を総合的に評価する</p>									
課題等	<p>・5分間スピーチ及び模擬授業については、各担当者がフィードバックを行う ・基礎学カテストについては、正答を配布し、各受講者が自己採点を行う</p>									
事前事後学修	<p>・5分間スピーチの準備 (各回60分) ・指導案の作成等の模擬授業の準備 (担当回のみ180分以上)</p>									
教材教科書参考書	各受講者の免許種に対応する学習指導要領 (最新版) 及び同解説 (最新版)									
留意点	この授業は、必ず教育実習に行く直前の年度に受講すること。この授業の結果により、次年度の教育実習の可否を判断するので、心して受講すること。									

科目名	アクティブ・ラーニングの理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP2-04. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10081		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「アクティブ・ラーニング」を単なる方法論としてではなく授業づくりの基本的な考え方として学び、その視点に立った模擬授業を実施する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 「アクティブ・ラーニング」の定義や背景について知る。</p> <p>2) 「アクティブ」な学びの実態や条件について考えを深め、「アクティブ・ラーニングの視点」を感得する。</p> <p>2) 「アクティブ・ラーニング」の視点をういた授業を計画・実施することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明							
第2回	基礎知識		・ 「学習」とは何か ・ 政策の背景							
第3回	アクティブ・ラーニングとは何か		・ アクティブ・ラーニングの背景と定義 ・ 生徒のどんな姿が「アクティブ」なのか [教科書第1章]							
第4回	アクティブ・ラーニングの授業づくり		・ 学びのメタ認知の必要性 ・ 授業展開の工夫 [教科書第3章]							
第5回	学級とアクティブ・ラーニング		・ 学級全体での学び合い ・ 小グループでの共同学習 [教科書第4章]							
第6回	アクティブな学びをつくる実践		・ 協同学習の様々な技法 ・ ジグソー法による授業づくり [教科書第5章]							
第7回	授業案の構想		・ 指導案の書き方の確認 ・ 参考文献の紹介 ・ ペアで授業案の構想							
第8回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第9回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第10回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第11回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第12回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第13回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第14回	模擬授業		・ 履修者による30分間の模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント					ディスカッション		
第15回	まとめ		・ 授業全体の総括							
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加度：30%</li> <li>・ 模擬授業：70%（模擬授業の実施：40%+模擬授業の振り返りと指導案の改善：30%）</li> <li>・ ミニツツペーパー：適宜加点</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬授業の振り返りと改善された指導案：次回授業時までに提出し、授業において教員からフィードバックがなされる。</li> <li>・ ミニツツペーパー：次回授業冒頭においてフィードバックを行う。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業前にシラバスに記載された教科書の各章を読んでくること。</li> <li>・ 模擬授業の実施にあたっては、授業計画のみならず、教材分析において十分な準備を行うこと。</li> <li>・ 模擬授業の実施後は、振り返りと指導案の訂正に十分な時間をかけて取り組むこと。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書 杉江修治編『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』明治図書、2016年。（ISBN：978-4181989149）</li> <li>・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則篇』2018年。（ISBN：978-4827815801）</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	生徒指導論・進路指導論 (キャリア教育の理論及び方法を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-05. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10092		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 生徒指導は、服装・頭髪指導に見られるように、学校現場では長く合理的管理だと見なされてきました。その中の進路指導も同様に偏差値・成績と同様の指導が行われてきました。だが、今日のキャリア教育を含む生徒指導は、目に見える基準のみで生徒に接することは、生徒の数値化できない、目に見えにくい能力に焦点をあてない管理型の教員となり、生徒も同様の思考になってしまうかもしれない。人間の社会から管理的側面を完全に排除することはできないが、同時に次世代が自らを育む側面を重視するというキャリア教育を含む生徒指導にしていけば、より良い循環となろう。どのような学校であれ、まずは時間をかけて生徒の自律的側面を重視する環境を形成していくことです。一方で、他律的な指導と、他方では、生徒の自律的な側面を育み、生徒自身が自らの「マニュアル」を心の中に徐々に作成していく。そうした能力をこれからの時代の教員は磨いていく必要があります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>生徒指導は、教員が生徒に指導・助言を行うことです。だが、教員ができるかぎり、あらゆる生徒に対応できる能力を磨いていこうと思えば、教員が生徒を通じて、生徒から学ぶことを忘れないことです。もちろん、この実践を続けることは、極めて難しい。だが、これにより、キャリア教育を含む生徒指導に創造性・発展性の可能性が見えてくる。現時点で、学校現場に出ていない受講者には、せめてこのことを理解だけでも理解してもらいたい。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明		8年間の高校現場での経験をもとに、政治学・行政学・教育学の視点で概説し、学生に理解させる。							
第2回	生徒個人としての課題とあいさつ (1) 将来と生き方		夢あるいは具体的目標を持ち、このことを強く信じて生活していくことが、自分を律し、そして能力を高めていくことを概説する。その基本があいさつであることを伝え、理解してもらう。					進路キャリア1-1・2・3		
第3回	(2) 進路と職業 (キャリア教育)		前回の目標はできれば、生徒が自分の将来の職業と結びつけられるように、担任が少しずつ関連する情報を生徒に提供していきいます。このことの繰り返し極めて重要であることを理解する。バブル経済崩壊後、我が国の進学・職業観が変遷中である。こうした中、キャリア教育により、「新たな」進学・職業観を学ぶ必要があります。その背景について学生に学んでもらいます。					進路・キャリア2-1・2		
第4回	(3) キャリア教育と学習		いわゆる学習は極めて重要だが、部活動や趣味、友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要。なぜなら、その努力する習慣は学習のみならず、あらゆることに応用可能だからです。このことが現段階での職業意識、将来の職業を決めていく過程にも極めて重要であることを伝える(キャリア教育)。					進路・キャリア3-1・2		
第5回	個人と集団の課題としての生活 (1) あいさつと集団		あいさつは、意識せずともできるようになることが必要です。細かな点は別にして、このレベルに達していれば、あらゆることに可能性を導きだせることを学生に伝える。					生徒指導1-1・2		
第6回	(2) いじめのおさる背景		いじめがおさる背景を時代の違いで分析し、学生に理解してもらう。					生徒指導3-1		
第7回	(3) いじめの社会的分析		いじめ問題は当事者同士のみならず、第三者が関係し強められることが多いことを学生に理解させる。					生徒指導3-2		
第8回	(4) 西東の経験したいじめへの対応		高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題に対応責任者として関わった。その時の過程と配慮すべきことを学生に伝達し、学生に考えてもらう。					生徒指導3-1・2・3		
第9回	(5) 掃除と生活態度		いじめ問題をはじめとした生徒指導には、まず教員と学級の生徒たちとの関係づくりから行うこと。そのための最も重要な手段が校内の掃除であることを学生に理解してもらう。					生徒指導1-3		
第10回	(6) 性の問題と人権		生徒の性の問題や疑問は、一般に外部情報や友人からの情報に影響を受ける。こうした情報には間違いや偏見のあるものが珍しくない。そうした情報に歪められない基本的な考え方を伝え、学生に理解を深めてもらう。					生徒指導1-4, 2-3		
第11回	教員と教員相互の課題としての指導体制 (1) ホームルームと担任		学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルーム活動によって、学級は形成されていく。その際の担任の基本的考え方や立場について学生に理解してもらう。					生徒指導2-1・2		
第12回	(2) 担任と学年会議		学年は担任・副担任にとって学級を形成していく重要な補助組織である。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の調整をしていく方法について学生に考えてもらう。					生徒指導2-2・3		
第13回	(3) 人権への配慮と生徒指導部		生徒指導部の活動は学校の秩序形成に寄与する活動である。その際対象となる生徒に人権配慮を常に考えておくことが必要なことを学生に理解してもらう。					生徒指導3-2・3		
第14回	プロフェッショナルとしての教員の資質		プロフェッショナルとしての教員の資質の分析。重要な資質は目に見える資質が目に見えにくい資質によって向上していくことを学生に理解してもらう。					生徒指導1-4, 3-2・3		
第15回	生徒指導の能力を向上させる教員の資質		教員の目に見えにくい資質を育む方法について、学生に理解してもらう。					生徒指導3-2・3		
評価方法及び評価基準	試験(100%)文章の構成と論理性を中心に評価									
課題等	生徒指導における教員は、感情よりも論理が強い。一部の、あるいは時に多くの生徒は、論理よりも感情が強い。このことを全体の講義を通して考えてほしい。									
事前事後学修	講義前日は、教育に関する記事の一つ以上、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事を全部丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	適宜、参考書等を講義において示します。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書はありません。</li> <li>第1回目の講義に欠席する学生は、事前に連絡をすること。</li> </ul>									

科目名	学校カウンセリング (教育相談を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-06. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	立花 茂樹 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 生徒の心の悩みを聴いて、よりよい対処方法を生徒や保護者とともに考えていくための助言・援助活動である学校カウンセリング(教育相談)の基本的な考え方や、基本的な相談技法の基礎を学ぶ。 講義だけでなく、話し合い活動や演習を取り入れ、開発的教育相談を体験する授業とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 学校教育におけるカウンセリング(教育相談)の意義と機能について説明できる。 2 事例を通して、学校生活において生徒たちに起こりうる様々な問題についての理解を深め、対応策について意見交換することができる。 3 基本的なカウンセリング(教育相談)の進め方と技法を修得する。</p>									
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	オリエンテーション 学校における教育相談の意義と課題			講義の概要と到達目標、スケジュール等を説明する 教育相談の特徴、種類の理解を通して教育相談の意義を確認する 「チーム学校」を進める教員に求められる資質能力を理解する				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	カウンセリングの理論と基礎知識			ロジャーズやフロイトなどの代表的なカウンセリング理論と精神分析、認知行動療法などの心理療法的理論の概要を学ぶ						
第3回	学校におけるカウンセリング			学校におけるカウンセリングの特徴や方法などの概要をとらえる カウンセラーの基本的態度であるカウンセリング・マインドについて理解する						
第4回	カウンセリングの基本技法			生徒の話を引き出す基本的スキル(言語的および非言語的スキル)を学び、ロールプレイによる「面接の基本的スキル」を体験する						
第5回	教育相談におけるアセスメント			アセスメントのための情報収集の基本と、心理教育的アセスメントや生態学的アセスメントなどアセスメントの基本を理解する				小テスト1		
第6回	思春期・青年期の発達課題と教育相談			思春期・青年期の特徴と発達課題を理解するとともに、社会環境や生活環境の急激な変化のなかで心的なバランスを崩しやすい生徒への支援を考える						
第7回	学級担任が行う教育相談			学級は人間関係を育む場でもある。生徒にとって居心地の良い学級環境と好ましい人間関係と気づくために学級担任が行う予防・開発的な教育活動を考える						
第8回	予防・開発的教育相談のための グループ・アプローチ			予防・開発的教育相談として学校で多く用いられているグループ・アプローチの種類とそれぞれの特徴について理解する						
第9回				アサーショントレーニング、構成的グループエンカウンターを体験する				小テスト2 グループワーク		
第10回	学校全体で進める教育相談			効果的な教育相談を進めるための校内教育相談体制の確立と教職員間の校内連携のポイントを理解する						
第11回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割			チーム支援を進めるうえで大きな働きが期待されているスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの職務と役割を理解する						
第12回	保護者との連携と支援			生徒支援における最良の協力・支援者である保護者との連携の進め方を理解する。また、悩みを抱える保護者支援のポイントを学ぶ				小テスト3		
第13回	「いじめ」の問題を考える			「いじめ」の定義といじめの諸相を理解し、いじめの被害者・加害者・周辺の生徒の心理特徴と支援の在り方考える				グループディスカッション		
第14回	「不登校」の問題を考える			「不登校」の原因と心理的特徴を理解し、不登校予防の取り組みと不登校生徒への支援の在り方考える				グループディスカッション		
第15回	関係者・関係機関との連携			生徒や学校とかわりの深い関係者や、外部関係機関との連携・協力関係の構築について学ぶ				小テスト4		
評価方法及び評価基準	<p>○小テスト25%、予習シートの作成25%、演習・協議への参加25%、最終レポート25%の割合で評価する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを4回実施し、その平均点で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後に提出されたものを評価する。 ・演習・協議への参加：基本的な相談面接の技法や演習及び事例検討等への参加状況(発言・態度など)により評価する。 ※欠席は2点を減ずる。 ・最終レポート：「学校における教育相談活動」に関するレポート(1000字程度)を課す。 ※小テストを除いて別添の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	最終レポートは第14回授業終了時に提出のこと。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書：会沢 信彦(2019)『教育相談の理論と方法』北樹出版 ISBN978-4779305986 そのほか、授業時に資料を配布する。 参考書：文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書 ISBN978-4877302740 ※参考図書は購入を義務付けるものではない。</p>									
留意点	日頃から児童生徒に関する様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持って授業に臨んでほしい。									

科目名	教育の方法と技術(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-10. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の定番小説教材の読みを深め、授業を構想し、模擬授業を行うことで学習指導案の改善を行う。</li> </ul> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の小説教材で学習指導案を作成し、模擬授業を行い、学習指導案を改善することができる。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	授業記録作成と省察 1			「羅生門」の授業記録を作成し、考察する 1				ディスカッション		
第2回	授業記録作成と省察 2			「羅生門」の授業記録を作成し、考察する 2				ディスカッション		
第3回	授業記録作成と省察 3			「羅生門」の授業記録を作成し、考察する 3				ディスカッション		
第4回	授業記録作成と省察 4			「羅生門」の授業記録を作成し、考察する 4				ディスカッション		
第5回	学習指導案づくり 1			学習指導案を作成する 1				グループワーク		
第6回	学習指導案づくり 2			学習指導案を作成する 2				グループワーク		
第7回	学習指導案づくり 3			学習指導案を作成する 3				グループワーク		
第8回	模擬授業および省察			「靴」(第2時)の模擬授業および検討会 1				模擬授業・討議		
第9回	模擬授業および省察			「靴」(第2時)の模擬授業および検討会 2				模擬授業・討議		
第10回	模擬授業および省察			「靴」(第2時)の模擬授業および検討会 3				模擬授業・討議		
第11回	模擬授業および省察			「棒」(第1時)の模擬授業および検討会 1				模擬授業・討議		
第12回	模擬授業および省察			「棒」(第1時)の模擬授業および検討会 2				模擬授業・討議		
第13回	模擬授業および省察			「棒」(第1時)の模擬授業および検討会 3				模擬授業・討議		
第14回	模擬授業および省察			「棒」(第1時)の模擬授業および検討会 4				模擬授業・討議		
第15回	まとめ			この授業のまとめをする						
評価方法及び評価基準	学習指導案35点、模擬授業35点、討議への参加30点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書や論文などを読んでください。 準備学習時間の目安：平均1時間									
教材教科書参考書	<p>【教科書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。 ただし、熟考したうえでの質問にしてください。									



科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)		科目ナンバリング	T-TLPR4-00. NK	単位数 時間	5単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目コード	L10070		150時間					
区分	資格関係科目		担当者名	佐々木 正晴、松橋 俊輔			授業 形態	実習	オムニバス		
	教職資格科目	必修									
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  〔キーワード：教育実習、現場体験〕  中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>										
到達目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	事前指導	教育実習の意義				第16回	実習	教育実習			
第2回	事前指導	教育実習における留意点				第17回	実習	教育実習			
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話				第18回	実習	教育実習			
第4回	実習	教育実習				第19回	実習	教育実習			
第5回	実習	教育実習				第20回	実習	教育実習			
第6回	実習	教育実習				第21回	実習	教育実習			
第7回	実習	教育実習				第22回	実習	教育実習			
第8回	実習	教育実習				第23回	実習	教育実習			
第9回	実習	教育実習				第24回	実習	教育実習			
第10回	実習	教育実習				第25回	事後指導	各自体験報告			
第11回	実習	教育実習				第26回	事後指導	問題点を抽出			
第12回	実習	教育実習				第27回	事後指導	問題点について議論			
第13回	実習	教育実習				第28回	事後指導	今後の課題を抽出			
第14回	実習	教育実習				第29回	事後指導	今後の課題について議論			
第15回	実習	教育実習				第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす			
評価方法及び評価基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点（50%）と教育実習校返送評価点（50%）を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。										
課題等	授業で指示します。										
事前事後学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。										
教材教科書参考書	教育実習ファイル（事前指導初回に配布）										
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。										

科目名	教職実践演習(中・高)		科目ナンバリング	T-TLPR4-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	L10073		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐々木 正晴、立花 茂樹 松橋 俊輔、佐藤 萬昭			授業 形態	演習	複数	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          教員免許状の取得に必要なとなる教科に関する科目、教職に関する科目等を履修し終えた段階において、これらの知識・技能を総合して、学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際、それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に、教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し、これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	今まで大学で学んだことを踏まえ、教員として実務を行うことができる									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション		これまでの学修を振り返る					担当：松橋		
第2回	教育現場の問題		各自が実習中に感じた教育現場の問題点について報告する							
第3回	実践的問題と教育学研究の架橋 ①		第2回の発表内容を基に関心が近い者同士でグループを組み、関連する教育学論文を収集のうえ、解決策を考える							
第4回	実践的問題と教育学研究の架橋 ②		第3回で各グループがまとめた解決策について発表し、その是非についてクラス全体でディスカッションを行う							
第5回	教科指導の実際 ①		教科ごとに模擬授業を行う					担当：佐々木		
第6回	教科指導の実際 ②		現職教員と共に模擬授業の総括を行う							
第7回	特別活動指導の実際		学級における話し合い活動の進め方をロールプレイングで考える							
第8回	学級経営の実際 ①		学級開きと最初の一週間の取組について構想を練る(全体発表)					担当：佐藤		
第9回	学級経営の実際 ②									
第10回	生徒指導の実際 ①		いじめへの対応について考える(グループ討議・全体発表)							
第11回	生徒指導の実際 ②									
第12回	保護者との対応		多様化する保護者像の理解を図るとともに、教師の最大の理解者であり協力者である保護者との信頼関係の構築について、面談や電話応対時のかかわり方を通して考える。(グループ討議・発表)					担当：立花		
第13回	個を生かす		一人一人の生徒は、それぞれの価値観に基づいて物事をとらえ、思考し、判断し、表現する存在であることを、1枚の写真のもつ情報やメッセージを読み取る、複数の写真をつなげて物語を構成するなどフォトランゲージの活動を通して問い直す。							
第14回	社会人の常識とマナー		社会人として知っておくべき常識やマナーを事例やロールプレイを通して確認し、4月からの社会人生活に備える。							
第15回	総括		・これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する ・教職履修ファイル「自己評価」欄の記入					担当：全員		
評価方法及び評価基準	各担当者により出される課題：25% x 4名									
課題等	各担当者より適宜掲示にて指示する									
事前事後学修	「教職履修ファイル」によるこれまでの学修成果の復習(各回60分)									
教材教科書参考書	・「教職履修ファイル」 ・各受講者の免許種に対応した学習指導要領(最新版)及び同解説(最新版)									
留意点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に、これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお、本科目は不定期開講の集中講義となるため、日程については掲示板をよく確認すること。									

科目名	障害者教育論		科目ナンバリング	W-KYT01-01.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50059		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          障害児に対する教育の歴史の変遷をたどるとともに、種々の障害の特徴や係わりの基礎的・基本的事項を中心に、特別支援教育制度の推進について理解を深める。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 世界及び日本の障害児に対する歴史の変遷を説明できる。          2 種々の障害の特徴について説明できる。          3 特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス 「障害」とは、世界の障害児の歴史			・ガイダンス（授業の内容・進め方・評価の方法） ・障害の意味・世界の障害児教育の歴史						
第2回	日本の障害児教育の歴史と現行制度			・障害児教育の歴史、養護学校義務化そして特別支援教育へ						
第3回	インクルーシブ教育システムの構築			・インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育						
第4回	就学先決定の仕組みと手続き			・就学決定の仕組みと手続き、特別支援教育の制度						
第5回	障害について 特徴と理解(1) 視覚障害、聴覚障害の理解と特徴と理解			・視覚障害、聴覚障害の障害特徴と教育の場						
第6回	障害について 特徴と理解(2) 知的障害の理解と指導・支援			・知的障害の障害特徴と教育の場						
第7回	障害について 特徴と理解(3) 肢体不自由、病弱の理解と指導・支援			・肢体不自由、病弱の障害特徴と教育の場						
第8回	障害について 特徴と理解(4) LD・ADHD・自閉症スペクトラム・情緒障害・言語障害の理解と指導・支援			・発達障害、情緒障害、言語障害、その他の多様場状態を併せもつ子どもの理解と指導・支援						
第9回	通級による指導			・通級による指導の対象と指導内容の方法						
第10回	個別の指導計画と個別の教育支援計画			・個に応じた指導・支援計画作成の必要性 ・個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成・活用						
第11回	教育課程、自立活動			・特別支援学校の教育課程 ・自立活動とは、自立活動の目標と内容（6区分と26項目）						
第12回	交流及び共同学習と居住地校交流			「交流及び共同学習」実施上の留意点、居住地校交流とは						
第13回	特別支援学校のセンター的機能 校内支援体制の整備			・特別支援学校のセンター的機能とは ・特別支援教育コーディネーターの役割						
第14回	早期発見・早期支援と連携 進学支援・就労支援と連携			・関係機関や保護者との連携						
第15回	試験とまとめ			・試験と障害児教育のまとめ					レポート 提出	
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加度（20%）、レポート（30%）、試験（50%）により総合的に評価する。          なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。</p>									
課題等	<p>授業内容に関して「確認小テスト」を実施することから、各主題毎に重要事項の理解度を自己確認する機会にして学修を進めて欲しい。</p>									
事前事後学修	<p>主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書：『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために 改定版』 ISBN978-4-641-22036 有斐閣アルマ          他に、適宜資料を配布する。          なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚園・小学部・中学部）、③同解説 各教科等編（小学部・中学部）、④同解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）は常時手許において参照できるようにすること。          参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 ISBN978-4-86342-255-1 クリエイトかもがわ</p>									
留意点	<p>紹介する参考図書を積極的に購読し、「特別支援教育」への関心を深めてほしい。</p>									

科目名	知的障害者の心理 I		科目ナンバリング	W-KYT02-02.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50060		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 知的障害の概念及び知的障害児・者の心理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを旨とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>まず心身の発達、心理機能について基本的理解をし、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	知的障害について			障害概念と知的障害概念の変遷						
第2回	知的障害と学校			知的障害を対象とした学校教育、インクルーシブ教育システム						
第3回	知的障害の理解			実態把握の進め方、実態把握から指導へ						
第4回	心理アセスメント			心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格						
第5回	多面的な理解			心理検査の種類、情報共有の在り方						
第6回	知的機能のアセスメント			知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式						
第7回	知的障害の感覚			感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚						
第8回	知的障害の運動機能と運動発達			運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ						
第9回	知的障害の学習			オペラント条件付け、見本合わせ法、課題分析						
第10回	知的障害の記憶と注意			長期記憶と記憶方略、持続的注意						
第11回	知的障害の思考と言語			言語発達、言語コミュニケーション						
第12回	知的障害の数概念と問題解決			数概念の発達、認知課題における問題解決						
第13回	知的障害に関連する障害			ダウン症、てんかん						
第14回	知的障害と発達障害			自閉症、ADHD、LDと知的障害						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	<p>講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。</p>									
事前事後学修	<p>知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。</p>									
教材教科書参考書	<p>参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5</p>									
留意点	<p>小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。</p>									

科目名	知的障害者の心理Ⅱ		科目ナンバリング	W-KYT03-03.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則				授業 形態	講義	単独
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 知的障害児・者の行動類型、パーソナリティ、社会活動やコミュニケーション、生涯発達などを問題として考える。さらに人格的適応や社会適応を支援する方法として芸術や運動についても学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>知的障害児・者のパーソナル適応、集団への参加と家庭生活や学校生活への適応、コミュニケーション問題をとりあげ、その基礎となっている記憶・思考能力や言語能力などの認知機能の理解を深めるようにする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	パーソナリティと情動特性			パーソナリティ特性や情動的特性						
第2回	行動特徴と動機づけ			行動特徴及び動機づけとの関連						
第3回	社会性と対人関係			社会性・対人関係の基礎、共同注意、心の理論						
第4回	家庭、学校生活			情動理解、家族の人間関係、学校での人間関係						
第5回	集団生活への参加			乳幼児期の人間的ふれあい、集団生活への参加						
第6回	社会生活への参加と生活領域の拡大			地域交流と職業生活への準備、キャリア発達						
第7回	社会生活・作業能力			社会生活能力、作業・職業能力の測定法						
第8回	特別支援学校・学級での適応			学校教育施設や教育課程の編成と教育指導への適応性						
第9回	非言語的コミュニケーション			非言語的意思表現、サイン言語による意思伝達の方法						
第10回	言語的コミュニケーション			音声知覚の発達、話し言葉・文字による意思表現の方法						
第11回	生活とICTの活用			学習を支援するICT、生活を豊かにするICT						
第12回	芸術療法的指導			様々な芸術療法を知り、基本的技術を学ぶ						
第13回	スポーツ・レクリエーション指導			運動能力に応じた指導上の配慮事項						
第14回	エイジングと生涯発達を巡る問題			高齢化に伴う問題、人間関係、生きがい						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	<p>講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。</p>									
事前事後学修	<p>講義内容に関連した具体的な事例に接する機会を設けるように努めること。</p>									
教材教科書参考書	<p>参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5</p>									
留意点	<p>小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。</p>									

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理		科目ナンバリング	W-KYT02-04.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L50062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える一助とする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション 肢体不自由児の概念と就学措置			授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次						
第2回	肢体不自由教育の歴史			肢体不自由教育の歴史、今日的課題						
第3回	運動機能の発達と障害			運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得						
第4回	肢体不自由をもたらす疾患			脳性まひ、進行性疾患						
第5回	肢体不自由をもたらす疾患			二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、運動発達遅滞						
第6回	重複障害			実態把握、重度・重複児、健康の保持						
第7回	脳性まひ児の運動・動作の特徴			脳性まひの運動・動作、身体の動き						
第8回	肢体不自由児の学習指導の内容と方法			肢体不自由教育における教育課程編成の基本方針・手続き						
第9回	肢体不自由児の学習指導の内容と方法			肢体不自由教育における学習指導の進め方・指導原理・留意点						
第10回	肢体不自由児の自立活動			自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点						
第11回	肢体不自由児の自立活動			生活上の課題、学習上の課題 指導法の工夫						
第12回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考						
第13回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容						
第14回	肢体不自由教育の課題			肢体不自由教育の課題と考え方						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%)          毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	<p>毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。</p>									
事前事後学修	<p>各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。</p>									
教材教科書参考書	<p>参考書 川間健之介 長沼俊夫 著 肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会 2020 ISBN978-4-595-32171-9</p>									
留意点	<p>障害の有る無しに関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にください。</p>									

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目ナンバリング	W-KYT02-05.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病弱対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考える。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念			授業の内容と進め方の説明、病弱の概念						
第2回	病弱教育の変遷・教育課程			病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法						
第3回	小児喘息			小児喘息の定義と病因、小児喘息の治療						
第4回	小児喘息の自立活動			小児喘息の自立活動の内容、留意点						
第5回	腎炎・ネフローゼ			腎炎・ネフローゼとは。長期入院児・短期入院児の問題点						
第6回	腎炎・ネフローゼの自立活動			腎炎・ネフローゼの病因、薬剤の副作用、自立活動						
第7回	進行性筋ジストロフィー			進行性筋ジストロフィーの特徴、医療上の方針と留意点						
第8回	進行性筋ジストロフィーの自立活動			進行性筋ジストロフィーの基本的な考え方、自立活動						
第9回	肥満、摂食障害			肥満児の定義、小児期肥満の病態生理、摂食障害						
第10回	肥満、摂食障害の自立活動			肥満や摂食障害の指導						
第11回	重複障害			重複障害、重度・重複障害、重症心身障害						
第12回	重複障害児の自立活動			重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容						
第13回	病弱教育における情報化			情報化の意義、病弱教育における情報化の課題						
第14回	発達障害			自閉症、ADHD、LDの特性の理解と教育的対応の在り方						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前事後学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。									
教材教科書参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社 2019 ISBN978-4-86371-493-9									
留意点	病気・障害の有る無しに関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。									

科目名	知的障害者教育論		科目ナンバリング	W-KYT02-06.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50064		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。知的障害教育に関する基礎的内容を解説する。知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における指導にあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす教育活動を進めていく上での基本的な問題について検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 知的障害教育の対象や就学先決定の仕組みと手続きについて理解する。 (2) 知的障害のある児童生徒の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 (3) 知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 (4) 知的障害教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史(1)			各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。欧米における知的障害の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米における知的障害のある児童生徒に対する教育の変遷についての理解を深める。						
第2回	知的障害教育の歴史(2)			日本における知的障害教育の成立・発展過程を概観する。戦後を中心に知的障害教育に関する教育制度の整備状況や教育実践の変遷について理解を深める。今日の知的障害教育の現状と課題について考察する。						
第3回	知的障害の定義・原因・発見			世界保健機関や米国における知的障害の定義及び分類を概説するとともに、日本における知的障害の定義について解説する。知的障害の原因と発見について理解を深める。						
第4回	知的障害のある児童生徒の心理的特性			知的障害のある児童生徒の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面等の状態像や基本的心理特性について解説する。コミュニケーション面の発達について、知的機能面や対人関係面の発達、養育環境面等から理解を深める。						
第5回	就学先決定のあり方と教育の場			障害のある子どもの就学先決定の仕組みと手続きを解説し、知的障害のある児童生徒の就学先決定のあり方について理解を深める。知的障害のある児童生徒に対する提供可能な教育機能について理解を深める。						
第6回	知的障害特別支援学校における教育課程の編成			知的障害特別支援学校の目的及び教育目標について解説する。知的障害特別支援学校の小学部・中学部・高等部の特徴的な教育課程の編成について理解を深める。						
第7回	知的障害教育における指導の基礎的・基本的事項			知的障害のある児童生徒個々に応じた指導・支援のあり方に関して解説する。学習への動機づけや個人差への配慮、過剰学習、個々の教育的ニーズに即応した指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。						
第8回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(1)			知的障害特別支援学校における指導形態として、各教科等を合わせた指導について解説する。日常生活の指導と遊びの指導を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。						
第9回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(2)			各教科等を合わせた指導として、生活単元学習を取り上げる。生活単元学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し生活単元学習の理解を深める。						
第10回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(3)			各教科等を合わせた指導として、作業学習を取り上げる。作業学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し作業学習の理解を深める。						
第11回	知的障害教育における指導の形態 教科別の指導			知的障害のある児童生徒の学習上の特性及び教科指導と教育課程との関連、指導上の留意点について解説する。知的障害特別支援学校における各教科の指導事例を通し、知的障害のある児童生徒に対する教科別の指導の理解を深める。						
第12回	知的障害教育における指導の形態 自立活動の指導			知的障害特別支援学校の自立活動の目標や指導内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて解説をする自立活動の指導と実践事例を紹介し、自立活動の指導方法や指導上の留意点について理解を深める。						
第13回	知的障害特別支援学級の学級経営及び指導の実際			知的障害特別支援学級の学級経営について解説する。教育目標の設定、教育課程の編成、学級経営等の配慮事項について理解を深める。各教科等の指導にあたり、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。						
第14回	交流及び共同学習			交流及び共同学習の意義や学習の形態、内容、実施計画、実施上の留意点、評価等について解説する。知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における実践事例を通し、交流及び共同学習の理解を深める。						
第15回	知的障害教育におけるキャリア教育及び進路指導			知的障害特別支援学校小学部・中学部・高等部におけるキャリア教育の意義やキャリア教育のねらい、内容等について解説する。知的障害のある児童生徒の進路指導について、実践事例を通し理解を深める。						
評価方法及び評価基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価(100点、100%)をする。 定期試験50点、50% 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の手法に関する修得状況について評価する。 課題レポート30点、30% 授業後に出题する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。</p>									
課題等	授業後に出题する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前事後学修	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害教育に関する基礎的内容の習得をめざす。									
教科書参考書	河合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著 『特別支援教育総論－インクルーシブ時代の理論と実践－』、北大路書房 ISBN:978-4-7628-2949-9									
留意点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障害のある児童生徒個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基礎的内容の習得に努めてください。 授業中に紹介する関連図書を調べ知的障害教育の理解を深めてください。									



科目名	肢体不自由者教育論Ⅰ		科目ナンバリング	W-KYT02-07.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 肢体不自由教育の歴史の変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。</li> <li>2 肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。</li> <li>3 肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念		・ガイダンス（授業の内容・進め方・評価の方法） ・障害とは							
第2回	肢体不自由教育の歴史		・整形外科の発展と肢体不自由教育							
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み		・肢体不自由の教育の場、就学制度と特別支援学校数、特別支援学級数、在籍児童生徒数等							
第4回	肢体不自由児の理解		・起因疾患と障害の理解							
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義		・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割							
第6回	教育課程Ⅰ 教育課程編成の基本		・教育課程編成の手順と評価、法令							
第7回	教育課程Ⅱ 重複障害者等に関する教育課程の取扱い		・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定							
第8回	教育課程Ⅲ 特別支援学校における教育課程編成		・多様性に応じた教育課程編成の工夫							
第9回	教育課程Ⅳ 小・中学校における教育課程編成		・通常学級や特別支援学級における適切な学習							
第10回	肢体不自由教育の指導Ⅰ 自立活動		・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容							
第11回	肢体不自由教育の指導Ⅱ 身体の動き		・感覚－運動、視覚に働きかける学習							
第12回	肢体不自由教育の指導Ⅲ コミュニケーション		・コミュニケーションを豊かにする指導内容と補助的手段の活用							
第13回	肢体不自由教育の指導Ⅳ 医療的ケア		・医療的ケアの内容と実施に係る制度							
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導		・感覚－運動、視覚に働きかける学習							
第15回	試験とまとめ		・試験と肢体不自由教育のまとめ						レポート 提出	
評価方法及び評価基準	講義への参加度（20％）、レポート（30％）、試験（50％）により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	授業内容に関して「確認小テスト」を実施することから、各主題毎に重要事項の理解度を自己確認する機会にして学修を進めて欲しい。									
事前事後学修	主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	教科書 安藤隆男・藤田継道編著（2015）『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房 ISBN 9784623072507 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③同解説 各教科等編（小学部・中学部）、④同解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 ISBN978-4-86342-255-1 クリエイツかもがわ									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ		科目ナンバリング	W-KYT03-08.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50066		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕				授業 形態	講義	単独
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	1 肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。 2 肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。 3 肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	特別支援教育の基本的な考えと現行制度			・特別支援教育の理念、教員の専門性、地域支援、現行制度						
第2回	保護者や関係機関との連携			・特別支援学校と隣接医療機関、福祉機関との連携						
第3回	キャリア教育・進路指導			・キャリア教育の定義と意義、進路指導						
第4回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ			・特別支援学校における脳性まひ児の学習						
第5回	指導の実際Ⅱ 重度・重複障害(1)			・重度・重複障害児の実態理解						
第6回	指導の実際Ⅲ 重度・重複障害(2)			・「最近接領域」、重度・重複障害児の教育基盤の形成						
第7回	指導の実際Ⅳ 進行性筋ジストロフィー			・特別支援学校等における進行性筋ジストロフィーの学習						
第8回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全			・特別支援学校等における二分脊椎、先天性骨形成不全の学習の実際						
第9回	教材・教具の開発と工夫、自助・介助具の理解と活用			・自作教材・教具の作成と活用、自助・介助具の機能と活用						
第10回	肢体不自由の青年期の指導と進路指導			・キャリア教育と進路指導						
第11回	肢体不自由の青年期のからだづくりと健康と自立活動			・からだの変化、動かし方の対応・配慮と課題						
第12回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用			・肢体不自由教育を支える諸制度とその活用						
第13回	インクルーシブ教育システム構築における肢体不自由教育			・肢体不自由に応じた合理的配慮の観点						
第14回	肢体不自由教育の課題と展望			・障害者基本法の改正等と学校教育						
第15回	試験とまとめ			・試験と肢体不自由教育Ⅱのまとめ					レポート提出	
評価方法及び評価基準	講義への参加度(20%)、レポート(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	授業内容に関して「確認小テスト」を実施することから、各主題毎に重要事項の理解度を自己確認する機会にして学修を進めて欲しい。									
事前事後学修	主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	教科書 安藤隆男・藤田継道編著(2015) 『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房 ISBN 9784623072507 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 ISBN978-4-86342-255-1 クリエイツかもがわ									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	病弱者教育論		科目ナンバリング	W-KYT02-09.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50067		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気を取り上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。          (2) 病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。          (3) 病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。          (4) 病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義		各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。							
第2回	病弱教育の歴史		日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題について考察する。							
第3回	就学先決定のあり方と教育の場		病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。病弱・身体虚弱児に対する提供可能な教育機能について理解を深める。							
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性		病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。							
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成		教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。							
第6回	病弱教育における各教科の指導		各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性、指導目標の設定、指導内容の精選、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第7回	病弱教育における自立活動の指導		自立活動の指導にあたり、実態把握、指導目標の設定、指導内容の選定、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第8回	病弱・身体虚弱児のキャリア教育及び進路指導		病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的取り組み、卒業後の進路指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。							
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援		白血病の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援		ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援		気管支ぜんそくの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援		単純性肥満の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援		筋ジストロフィーの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援		心身症の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援		重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。医療的ケアの取り組みについて解説する。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。							
評価方法及び評価基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価(100点、100%)をする。          定期試験50点、50% 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の手法に関する修得状況について評価する。          課題レポート30点、30% 授業後に出题する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。          授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。</p>									
課題等	<p>授業後に出题する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。</p>									
事前事後学修	<p>各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。          授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害教育に関する基本的内容の習得をめざす。</p>									
教材教科書参考書	<p>宮本信也・土橋圭子編集 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』、金芳堂          ISBN:978-4-7653-1627-9</p>									
留意点	<p>今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の修得に努めてください。保護者理解及び生命倫理、人生観などについて考えて欲しい。          授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。</p>									

科目名	視覚障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-10.	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50073		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業 の 概 要 等	<p>〔授業の主旨〕 視覚障害者とその機能形成を図る心理学的手法を探る。受講生はアイマスクを着用し、視覚障害状況を体験し障害状況の特性を捉え個別特性に応じた援助行動を探索する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>受講生一人一人が、視覚障害者教育の状況を捉え、教育活動の在り方について構想を作り、個々の障害状況に対してその機能形成を図る実験的手法を作成する力をつける</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	眼疾患とは(全盲、弱視)			医学的・生理学的観点から視覚障害状況を分類する						
第2回	視覚障害者のコミュニケーション			視覚障害状況における言語機能活動の特性について考える				ディスカッション		
第3回	盲学校の教育課程			盲学校の独自性と普通学校との共通性を整理する				ディスカッション		
第4回	視覚機能形成の具体例			視覚障害状況とその機能形成過程に関わる実験例を紹介する				ディスカッション		
第5回	視覚検査と保有視覚の活用			視覚検査で示された保有視覚を活用する手法について述べる				ディスカッション		
第6回	視覚障害児の認知と指導			視覚障害児の認知特性に基づく指導の実際と留意点				ディスカッション		
第7回	視覚障害幼児と保護者への早期支援			視覚障害幼児の生活空間を全体的に捉え、将来との結びつきを考える				ディスカッション		
第8回	個別の指導計画と教科支援計画、総括			視覚障害状況の個性性を踏まえた教科活動支援の実際、総括						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。</p>									
課題 等	<p>毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説する。</p>									
事前事 後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意 点	<p>心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hiroga-u.ac.jp オフィスアワー(木)14:20~15:50</p>									

科目名	聴覚障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-11.	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50069		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	立花 茂樹			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 聴覚障害教育の歴史を、聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績および指導方法の変遷から説明することができる。 2 聞こえの仕組みとその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。 3 聴覚障害児教育の教育課程や指導方法の概要等について説明することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	聴覚障害児教育の歴史			聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等を通して我が国聴覚障害教育の歴史を理解する				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類			聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について理解する				小テスト1		
第3回	障害の早期発見と保護者支援			聴覚障害の早期発見と保護者支援の必要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について理解する						
第4回	オーディオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い			オーディオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法について理解し、四分法で平均聴力を算出する補聴器の保守について理解する						
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴			聴覚障害であることによる言語の獲得の困難と言語使用の特徴について理解する				小テスト2		
第6回	聴覚障害とコミュニケーション			聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の長所と短所を理解する						
第7回	聴覚障害教育の教育課程			聴覚障害特別支援学校(小～高等部)における教育課程編成の基本的な考え方と各教科等の指導の工夫について理解する				小テスト3		
第8回	聴覚障害教育における自立活動			聴覚障害教育における自立活動の内容と指導上の留意事項について理解する				小テスト4		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート課題40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：講義開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「聴覚障害教育と手話」に関するレポート(1200字程度)により評価する。 ※予習シート及びレポートは、別添の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説(総則等編・自立活動編)は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	重複障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-12.	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50070		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	立花 茂樹			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 障害が重複し、重度である障害児であっても、それぞれに多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを学ぶ。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録したドキュメンタリー映画等の視聴を通して、重複障害の特性と実態把握、心理と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 重複障害の定義を説明できる。 2 重複障害児に対する教育の現状、重複障害者等に関する教育課程編成の取扱いの概要を説明できる。 3 重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的指導方法を選択することができる。 4 教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	重複障害の定義と関連する用語			学習指導要領に示す重複障害の定義を理解する 重度・重複、重症心身障害等関連用語を理解する				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	障害の重複・重度化の現状			障害の重複・重度化の現状と教育の場を理解する				DVD 「盲ろうの教育」視聴	視聴レポートを課す	
第3回	「盲ろう」の疑似体験			盲ろう者とその介助者役の両方を体験することを通して、重複障害者の心理と支援の基本を理解する				小テスト1 視聴・疑似体験レポートの提出		
第4回	重複障害児のコミュニケーション			発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を理解する						
第5回	重複障害児の教育課程			重複障害児に対する教育課程の編成（訪問教育を含む）の基本的な枠組みを理解する						
第6回	重複障害児の指導			指導課題の設定と指導内容・方法—「感覚と運動」「学習・概念行動」・「記号操作」—を知る				小テスト2		
第7回										
第8回	医療的ケアの現状と課題まとめ			特別支援学校等における医療的ケアの基本的な考え方と実施体制の在り方を理解する 重複障害児の指導において大切にしたい視点を整理する				小テスト3		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：ドキュメンタリー映像の視聴レポート及び盲ろうの疑似体験レポートにより評価する。 ※予習シート及びレポートは、別添の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	発達障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-13.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L50071		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	立花 茂樹			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 LDやADHD、高機能自閉症等の発達障害について、医学的な診断基準も参考にしながら、文部科学省の示すそれぞれの障害の定義や判断基準を確認し、障害特性を認知や行動の視点から捉えた基本的な教育的対応のあり方を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達障害の定義と判断基準及び障害特性について説明することができる。</li> <li>2 発達障害児への基本的な教育的対応と指導方法について説明できる。</li> <li>3 代表的な発達・知能検査法についてその特徴を説明できる。</li> <li>4 「個別の指導計画」作成を通して障害特性に応じた指導法を考えることができる。</li> <li>5 インクルーシブ教育を理解し、今後の発達障害児教育の在り方について自身の考えを述べることができる。</li> </ol>									
授業計画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	特別支援教育と発達障害			「特別支援教育の推進」に示す特別支援教育の理念を理解する 特別支援教育で新たに指導の対象となった発達障害について知る				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	自閉症・高機能自閉症の理解			文部科学省の自閉症・高機能自閉症の定義と判断基準等を通して障害特性を理解する						
第3回	自閉症・高機能自閉症の指導			TEACCHプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉症・高機能自閉症の生徒への教育的対応と指導の実際を知る						
第4回										
第5回	LD（学習障害）の理解			文部科学省のLD（学習障害）の定義と実態把握のための基準（試案）を通して障害特性を理解する				小テスト1		
第6回	LD（学習障害）の指導			難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応と指導の実際を知る						
第7回										
第8回	ADHD（注意欠陥/多動性障害）の理解			文部科学省の注意欠陥/多動性障害（ADHD）の定義とそこに示されている不注意あるいは多動性—衝動性症状の具体的な行動上の特徴を理解する				小テスト2		
第9回	ADHD（注意欠陥/多動性障害）の指導			ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などADHDの生徒への教育的対応と指導の実際を知る						
第10回										
第11回	二次的障害の発生と対応			二次的障害発生の原因なる背景を理解し、セルフエスティームを高める基本的な対応の仕方を学ぶ				小テスト3		
第12回	発達・知能検査法			心理アセスメントに用いる発達・知能検査法（K・ABC検査、WISC知能検査、新版K式発達検査）の特徴と概要を学ぶ				レポート課題の提示		
第13回	校内体制の確立と関係機関の連携			校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と関係機関との連携の在り方を理解する						
第14回	個別の教育支援計画と個別の指導計画			個別の教育支援計画と個別の指導計画の違いとその策定・作成の手順を理解し、個別の指導計画の作成を経験する（演習）						
第15回	インクルーシブ教育の現状			合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システムの構築の課題を理解する				小テスト4 レポート及び演習資料の提出		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%（小テスト30% + 演習課題10%）、レポート40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「インクルーシブ教育システム、発達障害者教育の充実」をキーワードとするレポート（1200字）により評価する。 ※予習シート及びレポートは、別添の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中・学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	教育実習(特別支援)		科目ナンバリング	W-KYT03-14	単位数 時間	3単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	L50072		90時間				
区分	資格関係科目		担当者名	立花 茂樹			授業 形態	実習	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  知的障害、肢体不自由、病虚弱を教育領域とする特別支援学校で二～三週間の教育実習を行う。  教育実習生としての心構えを持つことができるよう、講義や映像資料を通して教育現場への理解を深めるための事前指導を行う。事後指導においては、実習全般及び研究授業等についての反省を踏まえて、改めて目指す教師像を確立する。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 教育実習に臨むための留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。  2 教育実習生としての立場を踏まえながら、積極的な教育実習生生活を送る。  3 将来の特別支援学校教員としての意識を高めるとともに必要な専門性を身につけ、あるべき教師像を持つ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	事前指導① 教育実習(特別支援教育)の意義			ガイダンス 教育実習の目的と意義を確認する				手引を配布する		
第2回	事前指導② 特別支援学校教員の一日			教職員の勤務、服務、授業、学級事務等についての理解を深める						
第3回	事前指導③ 学習指導案の作成			サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議を行う						
第4回	事前指導④ 模擬授業			作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議を行う						
第5回	事前指導⑤ 記録の作成と活用			実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方を理解する						
第6回	特別支援学校における教育実習			実習校における教育実習(研究事業・授業研究を含む)に臨む						
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回	事後指導① 教育実習の成果と課題			教育実習により得た成果と課題等をまとめる				レポート作成		
第14回	事後指導② 実習の体験発表			「レポート：特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告会を行う				レポートの提出		
第15回	事後指導③ まとめ			「目指す教師像」をまとめる(履修ファイルへ綴じ込む)						
評価方法及び評価基準	教育実習校の評価(70%)と事前・事後指導の演習・発表・レポート(30%)を加えて総合的に判断する。									
課題等	体験発表の際には、示された様式のレポートに加えて研究授業で作成した学習指導案や用いた教材・教具等を用意すること。									
事前事後学修	<p>予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめて授業に臨むこと。  復習：その日の学習内容に関するポイントを振り返りシートにまとめること。</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書：用いない。  教 材：学内資料『教育実習(特別支援学校)の手引』を配布する。</p>									
留意点	<p>実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を素直にかつ誠実に受け止めるよう努めること。  社会人としてふさわしい態度・服装・言葉遣いに留意すること。  「豊かな発想、確かな指導力」を念頭に、教員としての資質能力を高めるよう、積極的な実習生活を期待する。  ※特別支援学校学習指導要領とその解説は常に持参すること。</p>									



科目名	学校経営と学校図書館		科目ナンバリング	L-QLLB2-00. NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20001		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	齋藤 次郎			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          本科目は、司書教諭資格取得科目全体の総論的性格を持っている。従って、出来るだけ今日の学校教育諸問題をふまえ、学校図書館が学校教育に欠くことの出来ない設備であることを検証する。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	学校教育目的達成に寄与する「学校図書館運営計画書」を作製する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	学校図書館の理念と教育的意義			学校とは何か、学校図書館とは何か				ビデオ①		
第2回	学校図書館と公共図書館			両者の共通点と相違点						
第3回	生涯学習の基礎としての役割			ラーンからスタディを目指す学校教育						
第4回	学校図書館の法制化			法と実践の狭間で						
第5回	学校図書館の目指すもの			未来の学校「アクティブラーニング」の場				ビデオ②		
第6回	学校図書館の基本的要素			人・物・金…そして…						
第7回	組織と運営			家庭・学校・地域が子どもを育てる						
第8回	図書館資料の管理			図書館は成長する				ビデオ③		
第9回	施設・環境整備			子どもにとって最適な学びの場とは						
第10回	予算と運用			未来への投資						
第11回	司書教諭の役割			縦と横のつながり				ビデオ④		
第12回	学校図書館の現状と課題			毎年の全国調査から						
第13回	経営評価と改善			評価の着眼点						
第14回	コミュニティスクールと学校図書館			地域に開かれた学校図書館						
第15回	まとめ			「学校図書館運営計画書」(案)の完成				ビデオ⑤		
評価方法及び評価基準	「科目試験」は無し「授業への参加度」 50% 「レポート」30% 「運営計画書(案)」 20%									
課題等	レポート「コミュニティスクール(未来の学校)」を演習形式で発表してもらい、コメントで応ずる。									
事前事後学修	講義終了後、コメントを書いてもらう中で出た疑問等を次回講義時に紹介する。その内容について自身で調べると共に、みんなで話し合ってもらおう。									
教材教科書参考書	竹内 愷 解説 JLA 図書館実践シリーズ15「図書館の歩む道 ランガナタン博士の五法則に学ぶ」日本図書館協会 ISBN : 978-4820410003 本体2,000 自作のレジュメ ビデオ①情報基地への招待 ②コミュニケーション ③保存と評価 ④司書教諭 ⑤授業が変わる、学校が変わる									
留意点	演習形式を取り入れる									

科目名	学校図書館メディアの構成		科目ナンバリング	L-QULB2-01.NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20002		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	本間 維			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  学校図書館は、収集された資料を活用して各科目教育を支えるとともに、児童・生徒の読書や学習を支えたり、情報リテラシーの育成を図ったりする役割があります。利用者にとって資料を使いやすいものとするために、図書館では資料の収集や整理において様々な工夫が施されます。この科目では、学校図書館の資料群（コレクション）の構築に必要な基礎的な知識と技術を紹介します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目録作成、分類・件名付与の基本的な作業ができる</li> <li>・ 資料の選択や収集にあたって注意すべき点を説明できる</li> <li>・ 学校図書館の役割や各種基準等に基づき、コレクション計画を考えることができる</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	学校図書館の役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つのセンター機能</li> <li>・ 各種資料で言及される学校図書館の役割</li> <li>・ 学校図書館で扱われる資料</li> </ul>							
第2回	コレクション構築		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コレクション構築とは何か</li> <li>・ コレクション構築の手順</li> </ul>							
第3回	資料組織法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料組織の目的と効果</li> <li>・ 資料組織の代表的な手法</li> </ul>							
第4回	主題分類法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題分類とは何か</li> <li>・ 日本十進分類法</li> <li>・ その他の分類法</li> </ul>							
第5回	実践：日本十進分類法を用いた主題付与		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本十進分類法の使い方</li> <li>・ 持参した資料への分類付与</li> </ul>							
第6回	応用：学校図書館のための分類を考える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童・生徒に向けた分類と、教職員に向けた分類とを考える</li> </ul>						ディスカッション	
第7回	主題索引法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題索引とは何か</li> <li>・ 基本件名標目</li> <li>・ その他の件名標目</li> </ul>							
第8回	実践：各種件名標目を用いた主題付与		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本件名標目を用いた主題付与</li> <li>・ 国立国会図書館件名標目を用いた件名付与</li> </ul>						Webを利用した授業	
第9回	応用：分類や件名を用いた主題検索		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各図書館のOPACを用いた資料検索</li> <li>・ 主題に基づく選書</li> </ul>						Webを利用した授業	
第10回	目録法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目録とは何か</li> <li>・ 日本目録規則</li> </ul>							
第11回	実践：日本目録規則を用いた目録作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本目録規則の使い方</li> <li>・ 日本目録規則を用いた書誌情報の記録</li> </ul>							
第12回	応用：Web上で公開されている目録		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各図書館のOPACで書誌情報を確認</li> <li>・ 学校図書館として必要な書誌事項を考える</li> </ul>						ディスカッション、Webを利用した授業	
第13回	出版流通の仕組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業出版</li> <li>・ 学術出版</li> <li>・ 再販制度と取次</li> </ul>							
第14回	選書		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選書の方法と留意点</li> <li>・ 選書のためのツール</li> </ul>							
第15回	コレクションの評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コレクションの追加、更新、廃棄</li> <li>・ コレクションの評価指標</li> </ul>							
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度：15%  問いかけに対するリアクション等  授業内課題：55%  第5回、第8回、第11回に行う演習：各15%  第6回、第12回に行うディスカッション：各5%  期末レポート：30%  学校図書館のコレクション計画を作成</p>									
課題等	<p>授業内の課題はその場で誤り等を指摘します。期末レポートは要件を満たしていない場合に再提出を求めます。</p>									
事前事後学修	<p>授業内にいくつかの報告書やWebサイトを紹介することがあります。それらを授業後に参照してみてください。  事後学修時間の目安：1日あたり30分程度</p>									
教科書 教科書 参考書	<p>必要に応じて授業内で紹介します</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回から第6回は図書館で実施予定。第7回から第12回はLL教室で実施予定。</li> <li>・ 授業に関する質問などは、各講義の前後の時間を利用してください。</li> <li>・ また、tsunagu.honma@gmail.comにメールで連絡していただいても構いません。</li> <li>・ メールでの課題提出を求めることがあります。メールの送信方法を確認しておいてください。</li> </ul>									

科目名	学習指導と学校図書館		科目ナンバリング	L-QULB2-02.NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20003		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	庭田 瑞穂、玉 たみ子			授業 形態	講義	複数	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          本授業では、学校教育における学校図書館の役割と意義、そして課題について取り上げ、これからの学校教育における学校図書館の在り方について学びます。司書教諭の役割が多く求められる昨今、学校現場において司書教諭がどのような役割をしているのかについても理解を深めます。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	司書教諭としての任務遂行に関する次の事柄を理解する。 (1) 教育課程における学校図書館の役割と課題 (2) 学校図書館に関する諸制度・基準 (3) 学校図書館における人的・物的環境整備 (4) 学校図書館運営の実務の概要									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校図書館の役割について			普通教育における学校図書館の現状					庭田	
第2回	学校図書館の歴史			日本における学校図書館の歴史					庭田	
第3回	学校図書館制度と職員設置の意義			学校図書館制度の概要と図書司書設置					庭田	
第4回	学習指導要領と学校図書館			学習指導要領の変遷と学校図書館の関わり					庭田	
第5回	学校図書館の機能と学校における役割			情報発信機能をもつ学校図書館の役割					庭田	
第6回	校内協力体制と司書教諭			図書司書の学校における位置づけ					庭田	
第7回	学校図書館と授業との関わり 1			小学校国語科の学習と学校図書館との関わり					庭田	
第8回	学校図書館と授業との関わり 2			中学校国語科の学習と学校図書館との関わり (1)					庭田	
第9回	学校図書館と授業との関わり 3			中学校国語科の学習と学校図書館との関わり (2)					庭田	
第10回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					庭田	
第11回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					玉	
第12回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					玉	
第13回	未来の学校図書館構想 1			図書館地図の作成 (実技)					庭田	
第14回	理想の学校図書館構想 2			学校図書館計画の作成					庭田	
第15回	まとめ			これからの学校図書館の在り方					庭田	
評価方法及び評価基準	評価方法：「科目試験」は無し「授業への参加度」50% 「レポート」30% 「私の願う学校図書館レポート」20% 評価基準：秀 合計が90点に達した場合 優 合計が80点に達した場合 良 合計が70点に達した場合 可 合計が60点に達した場合									
課題等	各講義終了後に記述するレポートと講義のまとめとして記述する「私の願う学校図書館」									
事前事後学修	次回講義時に前回の講義における疑問や課題に関するレポートをまとめて紹介し、意見交流を行えるよう準備するため、週3時間程度の学修が必要。									
教材教科書参考書	教科書：『学校図書館基本資料集』野口武悟・編 全国学校図書館協議会・監修 ISBN 978-4-7933-0098 教科書以外に、参考文献等はプリントとして配付する。									
留意点	司書教諭活動の実技の他、グループワークなど演習形式を取り入れる。									

科目名	読書と豊かな人間性		科目ナンバリング	L-QULB2-03. NLS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L20004		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	庭田 瑞穂			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>子どもたちに豊かな心を育成することのできる読書指導について取り上げます。子どもの発達段階に応じた読書指導の具体的な内容を、講義や演習を通して学びます。学校における読書指導と司書教諭の役割についても理解を深めます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の豊かさを体現する読書教育の在り方、読書指導の方法や手立てについて実践を通して知識や技能を身に付ける。</li> <li>・学校図書館における司書教諭の役割について理解を深める。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	読書の意義や目的			人間にとっての読書の意義や目的						
第2回	子どもたちの読書の現状			子どもたちの読書に対する意識の現状と変遷						
第3回	子どもたちの心の成長と読書			子どもたちの心の成長にもたらす読書の効果						
第4回	司書教諭と学校図書館			学校における図書司書の役割						
第5回	幼児期と読書			幼児期における読書との出会いと効果						
第6回	小学校国語科教育と読書との関連～			小学校における読書指導の実際						
第7回	中学校国語科教育と読書との関連～			中学校における読書指導の実際						
第8回	広がる読書と読書習慣の形成			読書の習慣形成を図るための指導方法の具体						
第9回	個人の読書から共同の読書へ①			進んで本を読む子どもを育てる指導の工夫						
第10回	個人の読書から共同の読書へ②			進んで本を読む子どもを育てる指導の具体的構想						
第11回	個人の読書から共同の読書へ③			子どもの主体性を引き出す読書指導の実際						
第12回	読書指導の実際 ～指導案作成を通じた授業の構想～			学習指導案作成を通じた読書指導の具体						
第13回	読書指導の実際 ～指導案作成を通じた授業の構想～			学習指導案作成を通じた読書指導の具体						
第14回	読書指導の実際 ～指導案作成を通じた授業の構想～			学習指導案作成を通じた読書指導の具体						
第15回	「豊かな人間性」を育成する読書教育 についてのまとめ			「読書」と「豊かな人間性」のかかわりのまとめ ※ 課題レポート提出						
評価方法 及び 評価 基準	<p>評価方法：「科目試験」は無し「授業への参加度」50% 「日常のレポート」30% 「まとめのレポート」20%</p> <p>評価基準：秀 合計が90点に達した場合 優 合計が80点に達した場合 良 合計が70点に達した場合 可 合計が60点に達した場合</p>									
課題等	各講義終了後に記述するレポートと講義のまとめとして記述するレポート									
事前事後学修	各時間毎に出される課題をレポートとして提出。									
教材 教科書 参考書	講義に関係する参考文献等はプリントとして配付。									
留意点	司書教諭活動の実技の他、グループワークなど演習形式を取り入れる。									

科目名	情報メディアの活用		科目ナンバリング	L-QULB2-04. NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L20005		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松本 悦子			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 デジタルメディアの急速な普及により、私達の生活や社会のしくみは大きく変わりつつあります。本講義では、社会とメディアの結びつきについて多元的に理解を深め、そのうえで、基本的な情報メディアの特性を理解し、具体的な活用方法を学びます。メディアや情報をめぐる問題について批判的に考える視座を身につけると同時に、メディアを活用し現代社会の様々な課題に自ら取り組む力を養います。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 社会とメディアの関係についてメディア論の視点から理解を深める。 2. 図書館における情報提供や情報発信、メディアの活用等に関する基礎的な能力を身に付ける。 3. 現代社会におけるメディアの役割と可能性について考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	オリエンテーション		この講義を受けるにあたって							
第2回	現代社会とメディア		現代社会における、私達の生活とメディアの関係性について考える							
第3回	社会の変容とメディアの変遷		メディアの変遷と社会のしくみや人々の生活の変化を結びつけて理解する							
第4回	高度情報社会とコミュニケーション		情報化がコミュニケーションに与える影響について考え、情報発信について考える視座を身につける						グループワーク	
第5回	公共性とメディア		公共空間の形成とメディアの結びつきについて学ぶ							
第6回	情報社会とメディア・リテラシー		メディア・リテラシーとは何か、基本的な理念を理解する						グループディスカッション	
第7回	情報検索と図書館の役割		データベースの活用など情報探索の基礎知識を身につける							
第8回	情報メディアの特性と選択		図書館で活用するメディアの特性とその利用について学ぶ							
第9回	多様な学びとインターネット		多様な学びに必要な情報検索について基本的な理解を深める							
第10回	情報メディアとネットワーク形成		メディアの活用とコミュニティやネットワークの形成について考える							
第11回	グループワーク①学校図書館と情報発信		広報誌制作に取り組み、情報の選択や編集について具体的に学ぶ						グループワーク	
第12回	グループワーク②学校図書館と情報発信		広報誌制作に取り組み、情報発信の重要性について理解する						グループワーク	
第13回	プレゼンテーション		プレゼンを通じ、情報共有の意味、情報発信の意義を学ぶ						プレゼンテーション	
第14回	情報倫理と著作権		情報に関する倫理と権利をめぐる問題について学ぶ							
第15回	メディア社会の課題と展望		21世紀ICT社会における、メディアの可能性と課題を探る							
評価方法及び評価基準	講義の終わりに提出してもらうコメントカード（20%）、グループワークの課題および取り組み姿勢（30%）、学期末の試験（50%）。評価は上記の総合評価（合計100点）で行います。									
課題等	授業内で提出してもらったコメントカードについては次時間にフィードバックします。									
事前事後学修	日常生活において、身の回りのメディアを意識するよう心がけ、情報の送り手・受け手に関心を持つようにしてください。気になったメディアや表現方法などについて授業内で発表してもらいます。準備学習時間の目安：1日30分以上									
教材教科書参考書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。									
留意点	随時質問を行い回答してもらう（回答する）、双方向的な講義形態で授業を進めます。学生の主体的・積極的な発言や質問を期待します。そのためにも普段から多様なメディアに接するよう心がけましょう。社会の動きに敏感になると同時に、さまざまな視座を身につけるきっかけになり、学習効果を高められると思います。私語や他の学生の迷惑になる行為等は認めませんので注意してください。なお、講義の順番は必要に応じて入れ替わる場合があります。									

科目名	社会教育経営論1		科目ナンバリング	L-QUS02-00. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名				授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	社会教育経営論2		科目ナンバリング	L-QUS02-01.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名					授業 形態	講義	単独
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	生涯学習支援論1		科目ナンバリング	L-QUS02-02. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	土井 良浩			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          本科目では、講義を通じて地域社会における生涯学習を支援するために有効なファシリテーションの理論と技術についての理解を深め、グループワークにおけるファシリテーションの実演やワークショップのプログラムデザインなどを通じてファシリテーションの技術の習得を目指す。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①講義を通じて、地域社会における生涯学習を支援するために有効なファシリテーションの基本的な理論と技術を理解する。          ②体験や実演を通じて、ファシリテーションの基本的技術やそれを活用したワークショップの企画・運営ノウハウを習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	オリエンテーション		講義の概要と到達目標、スケジュール等を確認する							
第2回	ワークショップとは？／お互いを知り合わせる方法「アイスブレイク」①		・ワークショップの意味、様々な手法の解説 ・初対面の人が打ち解け合うための方法の解説・演習					グループワーク		
第3回	ファシリテーションとは？／お互いを知り合わせる方法「アイスブレイク」②		・ファシリテーションの目的や役割の解説 ・初対面の人が打ち解け合うための方法の解説・演習					グループワーク		
第4回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」①		ワークショップの基本手法「ポストイット・トーク」の解説と体験					グループワーク		
第5回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」②		「ポストイット・トーク」ファシリテーターの実演①					グループワーク		
第6回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」③		「ポストイット・トーク」ファシリテーターの実演②					グループワーク		
第7回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」基礎編①		ファシリテーションの基本技術「ファシリテーショングラフィック」の解説と体験					ワーク		
第8回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」基礎編②		「ファシリテーショングラフィック」の体験					グループワーク		
第9回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」応用編		ミーティングにおける「ファシリテーショングラフィック」の実演					グループワーク		
第10回	身体を使って学ぶ方法「まち歩き」		地域の現状把握や将来イメージづくりの基本となるフィールドワーク手法「まち歩き」の体験					グループワーク		
第11回	ワークショップのプログラムデザイン／興味関心の近い人たちを束ねる方法		ワークショップのプログラムのデザイン方法の解説、興味関心の近いひとを束ねる方法「マグネットテーブル」の解説・演習					チーム分け		
第12回	ワークショップのプログラムデザイン／アイデアに形を与える方法		ワークショップのプログラムデザインの演習（ワークシート）					グループワーク		
第13回	ワークショッププログラムの実演①		第12回で作成したワークショップのプログラムの実演①					グループワーク		
第14回	ワークショッププログラムの実演②		第12回で作成したワークショップのプログラムの実演②					グループワーク		
第15回	プロセスデザインと参加のデザイン／授業のまとめ		・地域課題の解決につながる複数回のワークショップのプロセスのデザインや参加のデザインの解説					ワーク		
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法：授業時のワークへの取り組み・課題の充実度から総合的に判断する</li> <li>・評価基準：ファシリテーションやワークショップの基本的技術を理解し、意欲的に実践できたか</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の集大成として、ワークショップのプログラムデザイン、ワークショップの実施、実施レポートの作成を行う</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：必要な場合は前の回の終わりに提示する</li> <li>・事後学習：授業中に体験したことを、普段の活動に活用するように努めること</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業当日に使用する教材・資料は授業開始時に配布する</li> <li>・参考書については授業時に現物を交えて紹介する</li> </ul>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく演習に取り組むと同時に、どうしたら「楽しい場」「有意義な場」を作れるか考える機会にしてほしい</li> <li>・毎回の授業の終了時には「振り返りシート」を提出する</li> </ul>									



科目名	生涯学習支援論2		科目ナンバリング	L-QUS02-03. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40064		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名					授業 形態	講義	単独
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	社会教育演習		科目ナンバリング	L-QUS04-10. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	L40065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名					授業 形態	演習	単独
	社会教育士	必修								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	社会教育実習		科目ナンバリング	L-QUS04-11.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目コード	L40055		90時間				
区分	資格関係科目 社会教育士 必修		担当者名	生島 美和			授業 形態	実習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>公民館や実習を通じて、社会教育の複雑で重要な意味や、施設が抱える問題について、具体的・体験的に把握する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	現場において、社会教育施設・事業の運営や職員の職務について実践的に理解する。また実習後のリフレクション、課題研究のテーマ試案、報告・議論を通じて、実習での経験を自分の内面に定着できる。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について		第16回						
第2回	社会教育行政の現状	実習を行う地域の社会教育行政の実態について概説		第17回						
第3回	報告書の輪読①	昨年度の公民館視察の輪読を行う		第18回						
第4回	報告書の輪読②	昨年度の公民館視察の輪読を行う		第19回						
第5回	報告書の輪読③	昨年度の公民館視察の輪読を行う		第20回						
第6回	視察・調査準備	公民館視察・インタビュー調査の準備		第21回			<ul style="list-style-type: none"> <li>主として弘前市内の社会教育施設及び社会教育事業に携わる。</li> <li>実習はおおむね夏季休業中に5日間、秋季の公民館まつりで2日間実施する。職務場所・内容は実習オリエンテーションで決定する。</li> <li>実習は本学学生および社会教育スタッフの一員として責任と自覚をもって臨む、</li> </ul>			
第7回	視察・調査①	公民館の視察・職員へのインタビューを行う		第22回						
第8回	視察・調査②	公民館の視察・職員へのインタビューを行う		第23回						
第9回	視察・調査③	公民館の視察・職員へのインタビューを行う		第24回						
第10回	実習オリエンテーション	社会教育主事来校のもと実習日程の確定を行う		第25回						
第11回	プレ実習	市内の事業にプレ実習として参加する		第26回						
第12回	プレ実習	市内の事業にプレ実習として参加する		第27回						
第13回	プレ実習の振り返り	本実習に向けての課題・姿勢について		第28回						
第14回				第29回	実習の振り返り	実習を通じて学んだこと、見えたことを共有する				
第15回	社会教育実習			第30回	課題研究に向けて	次年度に取り組む課題研究について確認する				
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への参画、実習中の勤務態度などから、総合的に判断する。</li> <li>地域社会・社会教育をめぐる課題について、実習を通じて探究できたか</li> </ul>									
課題等	課題レポートは次の授業時間に返却し、確認を行う。									
事前事後学修	社会教育実習ノート（授業時に配布）									
教材教科書参考書	社会教育実習ノート（授業時に配布）									
留意点	実習に対する真摯な態度を求める。									

科目名	子ども・若者と社会教育		科目ナンバリング	L-QUS03-21.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40067		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	大坪 正一			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士									選択必修
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代の子ども・若者の抱える諸問題を取り上げ、地域の教育力を高めるための学習課題を検討する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	現代日本の子ども・若者の現状と課題を理解すること。地域での学習課題を整理できること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			講義の進め方について						
第2回	子ども・若者の問題とは何か			何を子ども・若者の問題として考えているのかを出し合って整理						
第3回	青少年の健全育成と地域			「健全育成」という考え方について検討する						
第4回	学校教育をめぐる諸問題1			子ども・若者の問題行動について						
第5回	学校教育をめぐる諸問題2			学校嫌いについて						
第6回	学校教育をめぐる諸問題3			競争について						
第7回	学校教育をめぐる諸問題4			いじめについて						
第8回	地域社会をめぐる諸問題1			子どもの居場所について						
第9回	地域社会をめぐる諸問題2			地域の教育力について						
第10回	子どもの貧困1			子どもの貧困の実態						
第11回	子どもの貧困2			子どもの貧困問題解決の課題						
第12回	子どもの貧困の社会的要因			新自由主義改革と貧困問題						
第13回	地域社会教育の課題			学校教育と社会教育の関連について						
第14回	質疑応答			これまでの講義について質疑						
第15回	まとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度30%、定期試験70%</p> <p>到達目標に対応して青少年問題解決のための学習課題に関する問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。</p>									
課題等	自分の青少年時代を客観的に分析すること									
事前事後学修	講義で質問ができるように考えてくること									
教材教科書参考書	講義において指示する									
留意点	<a href="mailto:tubo4@hirosaki-u.ac.jp">tubo4@hirosaki-u.ac.jp</a>									

科目名	博物館教育論		科目ナンバリング	L-QUCR3-06. NSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30058		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名					授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	社会福祉論 A		科目ナンバリング	L-QUS03-30. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40070		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解する。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解することができる。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解することができる。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	社会福祉の原理(1)		社会福祉の歴史、思想・哲学について学ぶ。							
第2回	社会福祉の原理(2)		社会福祉の理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴について学ぶ。							
第3回	社会福祉の歴史(1)		政策史、実践史、発達史等の観点から社会福祉の歴史について学ぶ。また、日本と欧米の比較史の観点についても学ぶ。							
第4回	社会福祉の歴史(2)		日本の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。慈善事業・博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉について。							
第5回	社会福祉の歴史(3)		欧米の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。救貧法・慈善事業・博愛事業・社会事業・社会保険・福祉国家・福祉社会について。					社会福祉の原理・歴史についての小テスト		
第6回	社会福祉の思想と哲学		社会福祉の思想と哲学を学ぶ。社会福祉の思想と哲学・人間の尊厳・社会主義・平和主義について。					レポート課題提示		
第7回	社会福祉の理論(1)		戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、政策論と運動論と経営論、欧米の社会福祉の理論について学ぶ。							
第8回	社会福祉の理論(2)		社会福祉の論点について、とくに公私関係・効率性と公平性・普遍主義と選別主義・自立と依存の観点から学ぶ。							
第9回	社会福祉の理論(3)		社会福祉の論点について、とくに自己選択・自己決定とバターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、社会的承認の観点から学ぶ。							
第10回	社会問題と社会構造(1)		貧困・孤立・失業・要援護性・偏見と差別・社会的排除等に代表される社会問題と社会福祉の関りを学ぶ。							
第11回	社会問題と社会構造(2)		少子高齢化・格差社会・グローバル化・価値観の変化等に代表される社会問題の構造的背景について学ぶ。					レポート課題提出		
第12回	社会福祉政策の基本的な視点		社会問題と福祉政策、福祉政策の理念、福祉政策と社会保障、福祉レジームと福祉政策について学ぶ。					社会福祉理論・政策に関する小テスト		
第13回	社会福祉政策におけるニーズとは		ニーズの種類と内容、ニーズの種類と資源、ニーズの把握方法について学び、社会福祉の対象とニーズについても考える。							
第14回	福祉政策におけるニーズと資源の関係		社会資源の種類と内容、把握方法、開発方法について学び、福祉政策におけるニーズと資源の関係についても考える。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価方法及び評価基準	<p>出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、途中小テストを実施する。また、講義中盤でレポート課題を課す。これらの項目が講義への参加態度の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	障害者の生涯学習		科目ナンバリング	L-QUS03-31. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40069		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	立花 茂樹 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 障害のある人々の生涯にわたる教育権・学習権は国際的なレベルでも確認されている。本授業では、障害のある人々が種々の困難を乗り越えて生涯学習の活動に参加し、また、学ぶ機会の拡大を獲得していくためには、社会がどうあればよいかをディスカッションや「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成を通して考えていく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 障害のある人々の学校教育終了後の学びと社会参加の現状と課題について、ディスカッションにより理解を深める。 2 障害のある人々の生涯にわたる学びの保障と推進・拡充のあり方について、自分の意見を述べるができる。 3 小グループ別に、先行事例を参考にしながら「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画を考え、発表する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション 生涯学習の定義と障害者と生涯学習		学習の進め方（LTD話し合い学習法）について説明する。 生涯学習の歴史と「障害者の生涯学習」に関する我が国の取り組みを配布資料及び「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の報告」等を通して知る					予習シートのDL・ULは、Webを利用して行う		
第2回	障害者権利条約と生涯学習		教科書の「はじめに」及び「序章 障がい者権利条約と生涯学習の保障」を通読し、障がい者の学ぶ権利について意見交換する					グループディスカッション		
第3回	生涯学習の場で学ぶ障害のある青年・成人の声を聴く		教科書「第1章 友だちと学ぶのは楽しい」を読み、障害者自身の語る言葉を通して、障害者にとっての生涯学習の意義と必要性を理解する					グループディスカッション		
第4回	地域・施設における青年学級の実践		教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第1節「那賀青年学級」（和歌山）と第2節「スマイル青年」（東京）の実践を通して青年学級の役割を考える					グループディスカッション		
第5回			教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第3節「ハスの実の家」（福井）と第4節「われらの大学校」（滋賀、京都）の実践を通して「障害の重い人にとっての学び」と「知的障害のある人々の高等教育」について考える					グループディスカッション		
第6回	大学におけるオープンカレッジの実践		教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第1節「オープンカレッジ東京（東京学芸大学）」の実践を通して、大学を活用した生涯学習講座の意義とその運営の在り方を探る					グループディスカッション		
第7回			教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第2節「愛知県立大学におけるオープンカレッジ」の実践を通して、発達障害のある青年への生涯学習支援について考える					グループディスカッション		
第8回	障害のある人のスポーツ		教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第1節「スポーツ分野における障がいのある人の生涯学習」を読み、障害者スポーツの現状と障害のある人だれでもがスポーツを学び楽しむことのできる環境整備について考える					グループディスカッション		
第9回	障害のある青年・成人期への性と生の学習		教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第2節「いのち・愛・性を学ぶ障がい当事者たち」を読み、障害のある青年・成人期への性と生の学習の大切さを考える					グループディスカッション		
第10回	すべての人々の生活・人生における学びの保障		教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第1節「障がい者社会教育のとらえ方と課題」を読み、障害のある人々を含むすべての人々の生活・人生にとっての学習保障を考える					グループディスカッション		
第11回	公的な障害者の学習機会拡充の取り組み		教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第2節「名古屋市における公的な障がい者社会教育」を通して、公的な障害のある人々の社会教育の拡充を図るための課題と方策を学ぶ					グループディスカッション		
第12回	障害者の生涯学習を推進するために私たちがしなければならないこと		学生を数グループに分け、それぞれが障害者支援グループであると想定して、「(※) 障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画案を作成する (※)はグループで自由に設定した障害名とする					グループワーク		
第13回	報告会「これからの障害者の生涯学習」		企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの難しさや楽しさを味わう					グループワーク		
第14回								グループワーク		
第15回	障害のある人々の生涯学習支援		教科書「終章 障がい者の生涯学習支援の展望と課題」の第2節「断続性と任意の『生涯学習』から権利としての生涯にわたる学び・発達支援へ」を読み、障害者の生涯学習についての各自の考えをまとめる					グループディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成55%、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成30%、授業への参加態度15%で評価する。 ・予習シートは1回分を5点とし、第2回～第11回及び第15回の11回分を作成する。 【知識・技能】及び【思考・判断・表現】の観点から評価する。 ・企画・運営計画の作成は、【思考・判断・表現】の観点から評価する。 ・参加態度については、【主体的に学習に取り組む態度】の観点から評価する。※いずれも別添の評価基準により評価する。</p>									
課題等	作成した予習シートを授業日の午前10時までに提出すること。									
事前事後学修	第2回以降、授業計画にある主題及び授業内容に関する予習シートを作成し、授業中のディスカッションに備えること。授業後は、ディスカッションで出された意見を参考に振り返りを行うこと。									
教材教科書参考書	教科書：田中良三・藤井克徳・藤本文朗編著（2016）『障がい者が学び続けるということ』 新日本出版社 ISBN978-4406059794 そのほか、随時プリントを配布する。									
留意点	※企画・運営計画案の作成は、授業時間内だけでは難しい場合もあることから、メンバー間で空き時間等を調整して自主的・主体的に進めてほしい。									

科目名	博物館概論		科目ナンバリング	L-QUCR2-00. NSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L30052		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	藤田 昇治				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>博物館の歴史や、博物館の種類（取り扱う資料の種類から、歴史・民俗系博物館、自然史系博物館、科学館、美術館、動物園、水族館などに区分される）、機能（調査研究、資料の収集・保存・管理、展示等）について学び、博物館について総合的に理解を深める。また、社会教育施設として、地域生涯学習の発展に貢献し、地域住民の学習活動・文化創造活動に積極的に関わっていく必要性・意義について理解を深める。授業は、双方向型・講義型授業、グループワーク、発表等を取り入れるので、積極的に取り組むこと。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>社会教育施設の中でも博物館が持っている特徴や果たしている機能等について、具体的な実践例を中心に学ぶ。とりわけ、自然・歴史・社会・文化の様々な領域における「もの」（資料）を扱っていることの特質や、社会的に蓄積されてきたこれまでの調査研究の成果について学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス（博物館・学芸員とは）		博物館が持つ機能や、住民の学習活動等について学ぶ。						ガイダンス	
第2回	博物館学の目的		博物館学ではどのようなことを学ぶのか、理解する。						講義	
第3回	博物館学の方法・構成		博物館学の方法や構成について理解を深める。						グループワーク	
第4回	博物館の定義		博物館学の方法や構成について理解を深める。						講義	
第5回	博物館の種類		扱う資料や設置者などを規準として、博物館の種類について学ぶ。						双方向型授業	
第6回	博物館の研究機能と資料の収集・保存・管理		博物館の研究機能と資料の収集・保存・管理の在り方を学ぶ。						講義	
第7回	博物館の展示		展示の技術や展示の企画について学ぶ。						双方向型授業	
第8回	博物館の教育活動		展示解説や体験学習・講座などの教育活動について学ぶ。						グループワーク	
第9回	博物館の歴史と現状		博物館の歴史（主として近代以降）と現状について学ぶ。						講義	
第10回	学芸員の役割		専門職員である学芸員の職務内容や求められる資質について学ぶ。						講義	
第11回	博物館関連法令		憲法・教育基本法・博物館法などについて学ぶ。						講義	
第12回	博物館と地域社会		地域社会に基盤を置いた博物館像について学ぶ。						双方向型授業	
第13回	科学技術の発展と博物館		情報技術などの発展と博物館との関わりを学ぶ。						講義	
第14回	博物館の未来像		社会の変容・技術革新等をふまえ、博物館の未来像を探る。						グループワーク	
第15回	まとめとテスト		まとめと講義内容の理解状況を把握するテストを実施する。						総括と試験	
評価方法及び評価基準	授業への取り組み（40%）とテスト（60%）により、到達目標の達成度を総合的に評価する。									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学修	適宜授業内容を振り返り、関連する文献を読むこと。									
教材教科書参考書	特に指定しない。授業時に必要に応じて紹介する。									
留意点	実際に博物館を訪れ、展示見学したり講座・講演会に参加するなどして博物館の実際に触れること。									



科目名	博物館経営論		科目ナンバリング	L-QUCR3-01.NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30059		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	藤田 昇治			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>博物館は、1951年に博物館法が制定されて以来、社会教育施設として位置づけられてきた。博物館は、公民館や図書館などの社会教育施設と比較すると、「もの」（資料）を取り扱うという特質がある。そのため、収蔵庫、展示場といった施設設備や、教育事業の展開などにおいて特徴を持っている。また、専門職員である学芸員は、日常的に調査研究を行っている。博物館が持つ、こうした施設や調査研究の成果、予算、職員などを、地域住民の学習活動等に如何にかかしていくのか、ということをも明らかにする。授業は、双方向型・講義型授業、グループワーク、発表等を取り入れるので、積極的に取り組むこと。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>博物館が社会教育施設として持っている、公民館や図書館等と異なる特徴と共通している点を学ぶ。また、「博物館を経営する」ということをどのように捉えるべきか、「博物館を経営する」上で重要なことはどのようなことか、ということを理解する。とりわけ、今日では地域社会が激しく変容し、様々な課題に直面していること、そうした状況の中で博物館に求められている役割に積極的に応えていく上で重要なこと、等について理解を深める。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス（博物館経営論とは）		博物館が持っている特徴と、経営について概要を学ぶ。					ガイダンス		
第2回	ミュージアムマネジメントとは		博物館の「マネジメント」の基本的な考え方を学ぶ。					講義		
第3回	行財政制度		博物館経営との関連で国や地方自治体の行財政制度について学ぶ。					グループワーク、発表		
第4回	博物館の財政		博物館経営に関わる、収入や支出の具体的な内容について学ぶ。					双方向型授業		
第5回	博物館における施設・設備		資料の保存や展示、教育活動等に必要な施設・設備について学ぶ。					講義		
第6回	博物館における組織・機構と職員		組織・機構と職員の配置の在り方について学ぶ。					講義		
第7回	博物館の社会的役割・計画と評価		博物館が社会的に果たすべき役割やその評価について学ぶ。					グループワーク、発表		
第8回	博物館倫理		博物館経営において求められる倫理観について学ぶ。					講義		
第9回	博物館における危機管理の在り方		自然災害や火災などの危機的状況への対応について学ぶ。					双方向型授業		
第10回	住民のニーズと博物館利用の諸形態		住民のニーズと展示見学を含めた多様な利用形態について学ぶ。					講義		
第11回	博物館の運営における住民参画		博物館運営に住民が参画する在り方について学ぶ。					双方向型授業		
第12回	博物館ネットワーク		博物館同士や地域の学校等とのネットワークについて学ぶ。					グループワーク、発表		
第13回	社会教育施設・大学等との連携の課題		公民館・図書館等や大学等との連携の在り方を学ぶ。					講義		
第14回	地域社会と博物館		地域社会と博物館との関わり方について学ぶ。					グループワーク、発表		
第15回	まとめとテスト		まとめと講義内容の理解度をはかるテストを実施する。					総括と試験		
評価方法及び評価基準	授業への取り組み（40%）と、テスト（60%）により、到達目標の達成度を総合的に評価する。									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学修	適宜授業内容を振り返り、関連する文献などに目を通すこと。									
教材教科書参考書	特に指定しない。授業時に必要に応じて紹介する。									
留意点	博物館について実践的に学ぶので、日頃から自分の目で博物館活動を捉える努力が必要とされる。									

科目名	博物館資料論		科目ナンバリング	L-QUCR3-02. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L30053		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	中村 剛之				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 博物館に収蔵される資料は博物館にとって生命であり、骨格であると言われる。コレクションの優劣は博物館を評価する最も重要な基準の一つである。博物館資料とは何か、いかに集め、管理、活用するかを学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>本講義では博物館資料収集の目的、資料の種類、資料の収集と作成、管理、活用について学ぶ。これに加え、コレクションの価値を高めるために学芸員が果たす役割について考える。博物館が扱う様々な資料に関する基礎知識を把握し、各自が学芸員の役割を理解することを目標とする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			博物館の機能と博物館資料の関わり。博物館資料論の概要を学ぶ。						
第2回	一次資料と二次資料			実物資料とそれに付随する情報の重要性、二次資料の性質を理解する。						
第3回	さまざまな博物館資料①人文系博物館			人文系博物館、美術館の資料について学ぶ。						
第4回	さまざまな博物館資料②自然史系博物館			動植物標本、鉱物などを扱う自然史系博物館の資料について学ぶ。						
第5回	さまざまな博物館資料③動物園、植物園			資料を生きた場で収集し展示する動物園、植物園について学ぶ。						
第6回	分類学と自然史系博物館の役割			自然史系資料の役割と管理を学ぶ上で知るべき分類学の基礎を学ぶ。						
第7回	世界の自然史博物館			国内外の自然史博物館の展示、収蔵室について知る。						
第8回	博物館資料の収集			資料収集のさまざまな方法、注意点を学ぶ。						
第9回	資料の受け入れから登録までの流れ			登録までの作業の流れとそれぞれの注意点を学ぶ						
第10回	情報の収集、データベースの作成と公開			二次資料の役割、どのような情報を収集すべきか、また、インターネットでの情報の公開について学ぶ。						
第11回	資料をもとにした展示、教育活動			展示や教育活動での資料の役割、活用の仕方を学ぶ。						
第12回	資料をもとにした調査研究活動			調査研究での資料の活用を学ぶ。						
第13回	展示見学			博物館資料論の観点から、実際の展示での資料の活用の様子を見学する。					弘前大学資料館を見学	
第14回	見学を受けてディスカッション			展示資料の選択、展示上の工夫や配慮について意見交換を行う。					ディスカッションを行う	
第15回	変化する博物館の役割			地域の文化資源の保存など、変化する博物館の役割を学ぶ。						
評価方法及び評価基準	<p>毎回の授業での課題、小レポート60% 期末テスト40%の割合で評価する。なお、これらのテストなどでは具体的な知識の多少ではなく、博物館と博物館資料の役割について正しい考え方が身に付いたかどうか注目して評価を行う。</p>									
課題等	<p>課題やレポートは提出された次の時間に返却する。この中で気がついたことはこの授業の最初に時間を取って解説を行う。</p>									
事前事後学修	<p>授業で出される課題に取り組み、次の授業のために紹介する参考図書等の関連する部分を読んでおくこと。空いた時間を使って博物館や美術館を訪ねるなどすること。これらを合わせて毎週3時間程度は予習、復習に取り組むことが望ましい。</p>									
教材教科書参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介、資料を配布する。</p>									
留意点	<p>授業期間中にいくつかの博物館、美術館を訪れ、見学をすること。授業に関する質問などはeメールで問い合わせること（中村剛之 dhalma@hirosaki-u.ac.jp）。</p>									

科目名	博物館資料保存論		科目ナンバリング	L-QUCR3-03. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	中村 剛之			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 博物館に收藏されている資料のほとんどは、本来の耐用年数を遥かに超えて残されているもの、あるいはそもそも保存に適さないものを人工的な保存処理によって残されているものであり、日常的に劣化や破損、喪失の危険にさらされている。資料の現状を維持し、将来に残すためには資料保存上悪影響となる要因を知り、この要因に対して個別に対応することが必要となる。学芸員は貴重な資料を管理し、将来に残すというcollection managerとしての役割も果たさなければならない。博物館学芸員として最低限知っておくべき資料保存に関する基本的な考え方と基礎的な知識を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	本講義では事例紹介をまじえながら、資料保存の基礎を学ぶ。博物館が收藏する様々な性質の資料について、それらがさらされている環境と、そこから生じうる劣化や喪失等、博物館資料の保存管理上の悪影響について理解すること、さらに、その影響を軽減、回避するために博物館ではどのような対策を講じているか理解することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	博物館での資料保存の意義			ガイダンスとして、資料を保存する博物館の役割、資料保存の意義を学ぶ。博物館資料の素材によって管理の方法が異なることを理解する。家財を守るため、一般家庭でどのような工夫や対策がなされているか確認しておく。						
第2回	温湿度の影響			温湿度の変化が資料にどのような影響を与えるか、悪影響をいかに回避するかを学ぶ。室内で湿度の高い場所にはどのような現象が見られるか調べておく。						
第3回	光の影響			波長による光の影響を知り、資料保存のためにどのような対策がとられているかを学ぶ。どのような場所、もので日焼けがおきやすいか調べる。						
第4回	大気汚染の影響			空気中の汚染物質の発生要因、資料に与える影響を知りその悪影響を回避する方法を学ぶ。酸性雨などの影響が見られる場所を探す。						
第5回	生物による影響			昆虫やカビが資料保存に与える影響を学ぶ。屋内にはどのような昆虫がいるか探してみる。						
第6回	生物被害対策とIPM			昆虫やカビなどによる被害を未然に防ぐ方法、および総合的害虫管理(IPM)の考え方を学ぶ。市販されている防虫剤や殺虫剤の成分にはどのような種類があるか調べる。						
第7回	自然史資料の保存処理と標本作成			動植物の標本資料の保存のための工夫を学ぶ。						
第8回	“人”の影響			戦争や紛争による文化財の破壊、盗難や、破壊など人による被害の実例を知り、対策について考える。最近起きた関連事例をインターネットなどを通じて調べておく。						
第9回	災害と博物館			地震や火災、津波などの自然災害に対する備えを学ぶ。						
第10回	文化財レスキュー			自然災害で被災した文化財の処理、救出活動の紹介。						
第11回	博物館資料のメンテナンスと修復			博物館資料の管理と手入れ、文化財の修復を学ぶ。						
第12回	収蔵室の機能を知る			資料収集の場である収蔵庫の役割や機能を学ぶ。						
第13回	展示施設見学			実際の展示の中での資料保存のための取り組み、資料保存上の問題点を確認する。				弘前大学資料館を見学		
第14回	ディスカッション			前の週の施設見学で学んだことについて、グループごとに報告を行い、学んだことについて意見交換を行う。				ディスカッションを行う		
第15回	変化する博物館の役割			地域の環境、自然保護への取り組みと博物館の役割を学ぶ。身近な環境、自然がこれまでどう変化してきたか、調べておく。						
評価方法及び評価基準	毎回の授業での課題や小レポート60%、期末試験40%の割合で評価する。なお、これらのテストなどでは具体的な知識の多少ではなく、博物館資料を保存することの意義や資料保存に関する学芸員の役割について正しい考え方が身に付いたかどうか注目して評価を行う。									
課題等	課題やレポートは提出された次の時間に返却する。この中で気がついたことはこの授業の最初に時間を取って解説を行う。									
事前事後学修	毎回の授業で出される課題を図書や身近なものを通して調べる。予習、復習には毎週3時間程度取り組むことが望ましい。									
教材教科書参考書	必要に応じて授業中に資料を配布する。参考書「岩崎武志（編著）『博物館資料保存論』講談社 ISBN 978-4-06-156503-6」									
留意点	授業に関する質問などはeメールで問い合わせること（中村剛之 dhalma@hirosaki-u.ac.jp）。									

科目名	博物館展示論		科目ナンバリング	L-QUCR3-04. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鶴巻 秀樹				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>市民にとって最も身近な博物館活動は展示であり、市民が博物館を訪れるきっかけは魅力的な展示を見るためとも言えます。展示の歴史の変遷を振り返り、展示の理論や方法論を学習し、実際の博物館展示を観覧することにより具体的な展示方法の理解を深めます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	博物館における主要な機能である展示の意義や目的を学び、展示において必要とされる知識を身につけ、展示を観覧・観察する目を養うことを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備考
第1回	博物館展示論とは			博物館の定義と機能、学芸員の役割						
第2回	展示の目的と歴史			展示のあり方、展示の歴史（展示に類する行為から博物館へ）						
第3回	展示と地域の文化財			博物館法と文化財保護法、文化財の種別と弘前の文化財						
第4回	構想と企画			展示の形態と分類、展示ストーリー、企画書・展示要項						
第5回	調査収集			展示資料調査の目的、調査の各段階						
第6回	実施と動線計画			展覧会開催に向けての学芸員の実務、導線とゾーニング						
第7回	開催の実際			実際に開催した展覧会の企画から実施まで						
第8回	環境管理			環境管理の目的、資料を傷める要因の把握と管理						
第9回	展示照明と展示ケース			モノの見え方、展示手法と照明、展示ケースの役割と種類						
第10回	展覧会等の見学①			博物館等施設及び文化財の展示状況の観察①						
第11回	展覧会等の見学②			博物館等施設及び文化財の展示状況の観察②						
第12回	展覧会等の見学③			博物館等施設及び文化財の展示状況の観察③						
第13回	展示解説とグラフィック			解説システムと方法、展示構造と解説、パネルの種類とデザイン						
第14回	展示資料の取り扱い			展示資料の種類と取り扱いの方法						
第15回	全体のまとめ			博物館における展示、モノ・ヒト・バ						
評価方法及び評価基準	平常点（授業への参加度・態度・積極性）、及び学期末のレポート提出により総合評価を行います。試験は行いません。									
課題等	提出課題は学期末のレポート提出のみとします。なお、採点したレポートについては返却予定です。									
事前事後学修	博物館展示について学ぶので、日頃から自分の目で展示を観覧することが重要です。併せて、様々な博物館活動に参加することを勧めます。また記録等を取り、見返せるようにすることが望ましいです。									
教材教科書参考書	教科書は特に指定しませんが、講義初回に参考書籍を紹介します。									
留意点	双方向的な講義形態を採用していますので、講義中の学生からの質問は大いに歓迎します（積極的な授業参加として評価します）。									

科目名	博物館情報・メディア論		科目ナンバリング	L-QUCR3-05. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30060		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松本 悦子				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本講義ではメディア論の基礎的な知識や方法論を学び、情報発信とメディアの意義について理解を深め、グローバル化とデジタル化が進む21世紀の社会における博物館のあり方について考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 社会とコミュニケーションをめぐる問題についてメディア論の視点から理解を深める。 2. 博物館における情報提供や情報発信、メディアの活用等に関する基礎的な能力を身に付ける。 3. メディアとしての博物館の役割と意義について考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考
第1回	オリエンテーション			この講義を受けるにあたって						
第2回	メディア論の視座			メディア論の基本的な視座について学ぶ						
第3回	社会の変容とメディアの変遷			メディアの歴史的な展開を社会の変容と結びつけながら学ぶ						
第4回	メディア論の系譜			メディア論の系譜について理解を深める						
第5回	ICT社会と博物館			ICT社会における博物館の役割について具体的に考える						グループワーク
第6回	博物館と情報メディアの意義			博物館における情報・メディアの意義について理解する						
第7回	情報提供とメディア機器			博物館における情報提供とメディアの関係について学ぶ						
第8回	博物館展示と情報発信			展示における情報発信について考える						
第9回	情報の蓄積とデジタル化			デジタル時代の情報の蓄積について考える						
第10回	市民参加型時代と博物館			現代社会における博物館と市民の関係について考える						
第11回	ネットワーク時代と博物館			情報の共有とネットワークについて理解を深める						
第12回	情報とメディア・リテラシー			メディア・リテラシーについて学ぶ						
第13回	博物館と地域社会			「公共性」という視点から博物館の役割を考える						グループワーク
第14回	グローバル化とメディア			グローバル化する文化とメディアについて理解を深める						
第15回	情報・権利・倫理			情報に関する権利と倫理をめぐる問題について考える						
評価方法及び評価基準	講義の終わりにコメントカードを提出してもらいます（30%）。加えて学期末に試験を行います（70%）。評価は上記の総合評価（合計100点）で行います。									
課題等	授業内で提出してもらったコメントカードについては次時間にフィードバックします。									
事前事後学修	日頃からネット以外の情報媒体（新聞、ラジオ、広報誌など）に気を配り、情報の送り手・受け手に関心を持つようになしてください。気になったメディアや情報、表現方法などについて授業内で発表してもらいます。準備学習時間の目安：1日30分以上									
教材教科書参考書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。									
留意点	随時質問を行い回答してもらおう（回答する）、双方向的な講義形態で授業を進めます。学生の主体的・積極的な発言や質問を期待します。そのためにも普段から多様なメディアに接するよう心がけましょう。社会の動きに敏感になると同時に、さまざまな視座を身に付けるきっかけになり、学習効果を高められると思います。ただし、私語や他の学生の迷惑になる行為等は認めませんので注意してください。									

科目名	博物館実習Ⅰ		科目ナンバリング	L-QUCR4-07.NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目コード	L30056		90時間				
区分	資格関係科目		担当者名	生島 美和			授業 形態	実習	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          県内外の博物館の見学、および本学が所有する資料（国指定重要文化財・弘前学院宣教師館）、地域資源の活用を通じ、学芸員に必要な資料の取り扱いについて実践的に学ぶ。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	学内実習や見学実習を通じ、博物館の多様な実態や学芸員の業務を理解し、実践的な能力を養うとともに、現地実習に向け準備を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について		第16回	見学実習	見学実習④				
第2回	テーマ決め	これまでの実習内容について振り返る		第17回	見学実習	見学実習⑤				
第3回				第18回	調査研究	テーマについて調査研究を進める				
第4回	視察	宣教師館の視察を行う		第19回	調査研究	テーマについて調査研究を進める				
第5回	調査計画づくり	1年間を通じて課題とするテーマを決定する		第20回	調査研究	テーマについて調査研究を進める				
第6回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う		第21回	調査研究	テーマについて調査研究を進める				
第7回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う		第22回	調査研究	テーマについて調査研究を進める				
第8回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う		第23回	調査研究	テーマについて調査研究を進める				
第9回	視察	関係個所の視察を行う		第24回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案				
第10回	視察	関係個所の視察を行う		第25回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案				
第11回	中間まとめ	資料収集・視察で見てきたことの確認		第26回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案				
第12回	見学実習	見学実習のオリエンテーション		第27回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案				
第13回	見学実習	見学実習①		第28回	先輩の実習報告	ポスターセッションに参加する				
第14回	見学実習	見学実習②		第29回	現地実習先の決定	実習館を決定し手続きを進める				
第15回	見学実習	見学実習③		第30回	まとめ	1年間の活動を振り返る				
評価方法及び評価基準	作業への取り組み、経過報告、完成した卒業レポートの内容、発表から総合的に判断する。 自らが設定したテーマについて、資料・データに基づき調査研究し、レポート作成を通じて報告できたか。また相互に質疑・応答ができたか。									
課題等	課題レポートは次の授業時間に返却し、確認を行う。									
事前事後学修	平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。									
教材教科書参考書	授業時に提示する。 授業内容に応じてレジュメのほか、適宜、文献や資料（事例紹介、新聞記事）などを配布する。									
留意点	授業への積極的参画・発言を求める。毎回の終了時には授業に関するコメントシートを提出する。									

科目名	博物館実習Ⅱ		科目ナンバリング	L-QUCR4-08. NC	単位数 時間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期			
			科目コード	L30057		45時間							
区分	資格関係科目		担当者名	生島 美和				授業 形態	実習	単独			
	学芸員	必修											
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  実習を通じて、博物館の複雑で重要な意味や、博物館が抱える問題を具体的に・経験的に把握する。また、そのための事前・事後指導を行う。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>												
到達目標	博物館の現場において日々体験する仕事に関心を持ち、博物館の運営や学芸員の職務について実践的に理解する。												
授 業 計 画													
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考				
第1回													
第2回													
第3回													
第4回													
第5回											青森県内外の博物館で、5日～2週間の実務実習を行う。		
第6回											実習はおおむね夏期休業中に実施する。実習期間・職務内容は実習館によって異なる。		
第7回											実習にあたり、前期授業時間を使って事前学習・調査、実習先での注意事項の説明を行う。		
第8回											実習後はその成果をポスターとして作成し、玄関前ホールなどでの展示作業を行う。		
第9回											さらにポスター・セッションの企画・運営と、そこでの成果発表を行うことで、実習での学びを定着・		
第10回											共有する。		
第11回													
第12回													
第13回													
第14回													
第15回													
評価方法及び評価基準	授業時・実習への積極的な関心・参加姿勢、課題への取り組み、実習先での勤務実態の報告から総合的に判断する。博物館の実習を通じ、専門的な知識・技能を修得できたか												
課題等	課題レポート、実習ノートは適宜返却し、確認を行う。												
事前事後学修	平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。												
教材教科書参考書	実習ノート、そのほか適宜提示する。												
留意点	前年度までに「博物館実習Ⅰ」を履修していること。実習に対し真摯な姿勢を求める。												